



「神殿に参入し、そこで交わす聖約を身に受ける機会は、
現世で授かる最高の祝福の一つです。」

ロバート・D・ヘイルズ長老はそう書いている。

「そして、聖約を受けてから、
日々聖約に従って生活することは、
わたしたちの信仰、愛、献身を示し、
天の御父や御子イエス・キリストを敬うという
霊的な決意の表れとなります。」

「神殿の祝福」12ページ参照



リアホナ

神殿の祝福、 7-21ページ

わたしたちの預言者のように仕える、
26, 30, 「フレンド」2ページ

なぜ、醜いアヒルの子など
一羽もないのでしょうか、36ページ

トルティーヤの奇跡と神殿、
「フレンド」6ページ

成人

大管長会メッセージ

- 2 従順を通して力を見いだす
トーマス・S・モンソン大管長

家庭訪問メッセージ

- 25 次の世代を養い育てる

特集

- 12 神殿の祝福 ロバート・D・ヘイルズ長老
神殿に参入し神聖な聖約を交わす機会は、死すべき世においてわたしたちに与えられる最も偉大な祝福の一つです。
- 16 奉仕する特権 マイケル・R・モリス
ブラジル・レシフェ神殿で毎日奉仕するマリア・ジョゼ・デ・アラウジョ姉妹は、神殿で定期的に礼拝する人は、神殿の真の意味と力を理解するようになると言っています。
- 18 神殿に頻繁に参入する民 ライアン・カー
親しい交わり、家族歴史、死者のためのバプテスマによって靈感を受けたあるワードの会員たちは、自分自身のエンダウメントを受けました。
- 22 新しい「福音の視覚資料集」 マイケル・G・マドセン
この安価な新しい教材にある100以上の絵や写真は、福音を教え、学ぶ助けとなります。
- 26 仕えることの祝福
ワードの会員を変えた末日聖徒の4つの物語。
- 30 わたしが？ イスラエルの羊飼いは？
ダニエル・L・ジョンソン長老
わたしたちが「囲いに連れ戻そうとしている」羊たちは、「羊飼いにあって大切な存在」です。主は、兄弟姉妹たちを連れ戻すためにするべきことについて、わたしたちを導き、靈感を与えてくださいます。
- シリーズ
- 44 末日聖徒の声
森の中で祈った無神論者。神殿への好奇心。特別な気持ちを期待する。国際色豊かな感謝祭のディナー。
- 48 今月号の活用法
家庭の夕べのアイデアと、今月号に採り上げられているテーマ。

表紙
表紙——写真加工/マシュー・ライアー
裏表紙——カリフォルニア州ロサンゼルス神殿の壁画。パナマ・パナマシティー神殿のドアの写真/マシュー・ライアー。複写は禁じられています。

青少年

特集

- 7 価値ある待ち時間 バレリア・サレルノ
死者のためのバプテスマを行う順番がなかなか来ないのでいらいらしてきました。そのとき、わたしが身代わりを務めようとしているこの亡くなった人たちは、何世紀も自分の儀式を待っていたことに気づきました。
- 8 平安の場所 リチャード・M・ロムニー
ある若人たちにとって、神殿は美しい建物でもあり、また、自分たちの夢と希望を思い出させてくれるものでもあります。
- 36 醜いアヒルの子か、それとも高貴なハクチョウか——
それは、あなた次第！
エロル・S・フィッペン長老
皆さんは選ばれた神の息子娘です。あなたの内に秘められた神聖な可能性にふさわしい生き方を選択してください。
- 40 祈りによって始める ジャネット・トーマス
オタワ州オンタリオステークの10代の若者たちは、「祈ることは身につけるべき素晴らしい習慣です」と言います。彼らは、祈りから癒しや慰め、強い証を得たことについて語っています。
- シリーズ
- 24 ポスター——徳——黄金の標準
- 34 質疑応答
家族の中でわたしはいちばん若く、年も離れています。きょうだいの活動や会話の輪から外れているようにいつも感じます。きょうだいとの関係を改善するために何ができるでしょうか。



秘密を教えます…… もしもみんなに言うって約束したら。



2010年から『リアホナ』が新しくなります。

1月号から『リアホナ』が変わります。様々な点でもっと良いものになります。

例えば……

- 目次やセクションのタイトルのデザインが変わり、読みたい記事がを見つけやすくなります。
- 青少年に特化したセクション。
- ヤングアダルトに特化したセクション。家族でもっと話し合い、教え合えるように、年齢を問わずすべての人が読みたくなるように工夫された記事が登場します。
- 教会員になったばかりの人のための記事。

おなじみの記事(大管長会メッセージ、家庭訪問メッセージ、末日聖徒の声、質疑応答)は、もっと見つけやすくなり、デザインも変わります。

新しい号を見て、皆さんは驚かれるでしょう。ぜひ、皆さんと、皆さんの身近にいる人々が確実に予約購読を更新し、お見逃しになりませんように。

リアホナ 2009年10月号
第11巻第10号(04290 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、
M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、
デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、
D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

編集長:スベンサー・J・コンティ

顧問:キース・K・ヒルビッグ、菊地良彦、ポール・B・バイパー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

編集主任:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者:ライアン・カー

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリットン、ラリー
ン・ポーター、ガント、アニー・ジョーンズ、キャリー・カスデン、ジェ
ニファー・マディー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サラ・J・オ
デカー、ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキー、チャド
E・ファリス、ジャン・ビンボロー、リチャード・M・ロムニ、ドン・L・サー
ル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワウデル

主任秘書:ローレル・トリスチャー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カネバン

制作主幹:ジョン・アン・ピーターズ

デザイン/制作スタッフ:カリ・R・アロウ、コレット・ネバカー・オーヌ、ハワード
G・ブラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリ
ステンセン、キム・フェンスターマカー、キャスリーン・ノード、エリック・P
ジョンソン、デニス・カービー、スコット・M・ムイ、ギニー・J・ニコルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み/配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール—liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ
クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ
ア語、ギリシャ語、キルギス語、クワチア語、サモア語、シンハラ語、スウェ
ーデン語、スペイン語、スロベニア語、セバノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、チェコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トルコ語、日
本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィンランド語、フ
ィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポルトガル語、
ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
アニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
一時的に、また非営利目的で使用する場合は複製することができます。
複製資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場
合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載
されています。英語の場合は「Gospel Library(福音ライブラリ)」をクリック
してください。その他の言語は「Languages(言語)」をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年10月号第11巻第10号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料は
ソルトレークシティで納められています。住所変更は60日前にご連絡くだ
さい。最近の号の宛ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆
国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーク配送センターにお送りく
ださい。購読に関するお問い合わせ:1-800-537-5971。クレジット
カード(ビザ、マスターカード、アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承
ります。(カナダ郵便情報:出版承諾番号40017431)

郵便局長殿:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先: Salt
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,
Salt Lake City, UT 84126-0368

こ ども 子 供

F2 **予言者の声**
予言者の愛 ディーター・F・ウークトドルフ管長

F6 **特 集**
トルティーヤのきせき ジェーン・マクブライド・チョーテ

F13 **しんでんのまわりを** **きれいに** **する** ジョシュア・J・パーキー

F4 **シリーズ**
分かち合いの時間——かぞくは **かみさまによって**
さだめられたものであると **わたしたちは** **しんじています**
シェリル・エスプリン

F8 **よげんしゃ** **ジョセフ・スミスの** **しょうがいから——**
心の広い人

F10 **イエスさまのように**

F12 **音楽——わが** **主の** **神権**
ジョン・クレープン

F14 **小さな** **お友だちへ——**
神殿は **天のお父様からの** **おくりもの**
菊地良彦 長老

F16 **いろ**
色を **ぬり** **ましょう**



「フレンド」表紙
絵/クレグ・ステープリー



今月号のどこかに隠れている
フィジー語のCTRリングを
探しましょう。
選べ、正しいページを!



読者からの便り

疑問への答え

わたしはこの驚くべき機関誌に、そしてこの機関誌の中に収められている証、新しい情報、聖句の解説、レッスンの教材に、心から感謝しています。天のお父様にわたしの疑問を尋ねたときに、聖霊によって『リアホナ』を読むように促され、疑問が答えられたことが、ほんとうに何度も何度もありました。わたしは毎号喜びをもって受け取っています。

ロシア、エプゲニヤ・サマルスカヤ

「リアホナ」を見つけるとうれしくなります

わたしは『リアホナ』が大好きで、夫とわたしは多い時で一度に5冊、定期

購読していたこともあります。多めに買った分は、近くに住む人にプレゼントするのです。ある隣人は、疲れたり、気落ちしたりして帰宅したときに郵便受けに機関誌があるのを見つけるとうれしくなると言ってくれました。中央幹部のメッセージから一般会員の経験談まで、すべての記事が靈感を受けていることを知っています。機関誌を読むと知識と祝福を得ることができ、同胞に対する愛と理解が増すのです。

メキシコ、ベルサ・ビオラ・レティス・エスピノ

ご意見やご提案を liahona@ldschurch.org にお送りください。掲載するお手紙は、誌面の都合上、あるいは明確な表現にするために編集されることがあります。



従順を通して 力を見いだす

トーマス・S・モンソン大管長

今日、世の中は若さに重点を置いています。皆が若く見られたい、若い気分
でいたい、若くなりたいと思っています。実際、若返りの夢をかなえてくれそうな製品の購買額は、毎年莫大な額に上っています。こう自問したくなるのも当然のことでしょう。「若さを追い求めることは、わたしたちの時代や世代に始まったものだろうか。」歴史をひも
といてみればその答えが見つかります。

何世紀も前の大探検時代、探検隊は、支度を整えると、自信に満ち冒険心に富んだ乗組員を船に乗せて、海図に描かれていない海へと、文字どおり若さの泉を求めて船出しました。当時の伝説が約束するところによれば、「遠いかなたの地」とある場所に、この上なく清い水をたたえた魔法の泉があり、この泉からあふれる水を心ゆくまで飲みさえすれば、みなぎる若さを取り戻し、活力は尽きないというのでした。

コロンブスとともに航海したポンセ・デ・レオンは、この若さの薬がきっと見つかるという伝説を心から信じ、壮大な探検の航海をして、バハマ諸島やカリブ海諸島の一帯を探索しました。彼の努力は、ほかの多くの人々の場合と同様、そのような発見をもたらさませんでした。なぜなら、神の神聖な計画では、人は若い日々を人生で一度しか味わえないことになっているからです。

真理の泉

幾ら知恵を絞って探し回っても、若さの泉というものは存在しません。しかし、もっと貴い水、すなわち永遠の命をもたらす別の泉が存在します。それは、真理の泉です。

ある詩人は真理の探究のほんとうの意義を理解し、次のような不朽の詩を書いています。

真理は人も神も
願い求む宝
行きて求めよ深きに、
また高き空に光る
いと尊き希望……

真理は時を超えて
始めなり、終わりなり
天は滅び、地は裂くとも
真理は悪を切り抜け
永遠に変わらずあらん¹

1833年5月、オハイオ州カートランドにおいて預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主は次のように宣言されました。

「真理とは、現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識である。……

真理の御霊は神から出ている。……主〔イエス〕は完全な真理……を受けられた。……



「真理の泉」を
求めるに際して、
海図に描かれていない
海を旅する必要は
ありません。
なぜなら、
愛ある天の御父が
道を明らかにし、
従順という
絶対確実な地図を
用意しておられる
からです。





人はだれも神の戒めを守らないかぎり、完全な真理を受けることはない。

神の戒めを守る者は真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知るようになる。」²

すでに完全な福音が回復され、光が与えられているこの時代に生きる皆さんやわたしは、「真理の泉」を求めるときに際して、海図に描かれていない海や、道標のない道を旅する必要はありません。なぜなら、愛ある天の御父が道を明らかにし、従順という絶対確実な地図を用意しておられるからです。

主の啓示された御言葉は、従順がもたらす祝福と、遠回りして罪と過ちの禁じられた道を行く旅人が必ず味わう心痛や絶望について、いきいきと教えています。サムエルは、動物の犠牲をささげる習慣に浸り切っていた当時の人々に向かって、大胆に次のように宣言しました。「従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」³

古代と現代の預言者たちは、従順がもたらす力を理解してきました。次のように語ったニーファイについて考えてみてください。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。」⁴ また、モーサヤの息子たちが持っていた力について、モルモンは次のように見事な言葉で説明しています。

「彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」⁵

戒めに従う

デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)は、ある総大会の開会のメッセージの中で、教会員に向けて、わたしたちの時代のための教えを非常に簡潔にしかも力強く述べました。「神の戒めに従ってください。」⁶

救い主も御自身のメッセージの中で、従順について強調し、次のように宣言しておられます。「わたしから祝福を受けたと思う者は皆、その祝福のために定められた律法とその条

件に従わなければならない。その律法とその条件は、創世の前から定められたものである。」⁷

主のなされたことを見ると、まさしくこの教えのとおりです。主は、完全な生涯を送り、御自身の神聖な使命を尊ぶことによって、正真正銘の神の愛を示されました。主には傲慢なところがまったくありませんでした。うぬぼれて思い上がることもなさいませんでした。不忠実な点はかけらもありませんでした。非常に謙遜で、誠実かつ真実な御方でした。

主は偽りの頭である悪魔の誘惑を受けられました。しかし、40日40夜の断食をし、「そののち、空腹になられ」、肉体的に弱っておられたにもかかわらず、悪魔の最も強く心をそそる狡猾な申し出を受けられたとき、主は自ら正しいと知ることから離れることを拒み、従順の模範をわたしたちに示されました。⁸

ゲツセマネでの苦悶のときも、汗が血のしたたりのように地に落ちるほどの苦しみに耐え、次のように言って、従順な御子であることを模範によって示されました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」⁹

イエスはガリラヤでペテロに「わたしについてきなさい」と言われました。ピリポにも「わたしに従ってきなさい」と同様の指示をお与えになりました。取税人のレビもちょうど税を徴収

していたとき、「わたしに従ってきなさい」という招きの言葉を受けました。主は御自身を追いかけて来た金持ちにも、「わたしに従ってきなさい」と言われました。¹⁰ まさにそのイエスは、その言葉を、皆さんやわたしにも向けておられます。「わたしに従ってきなさい」と。わたしたちは喜んで従おうとしているでしょうか。

従順といえばまず預言者が思い浮かびますが、力の源であるこの従順は、現代のわたしたちも身に付けられるということ肝に銘じておく必要があります。

現代の模範

従順の教訓をよく学び、真理の泉を見いだした、ある優しく誠実な人物がいます。財産があるわけではなく、つましい暮らしをしていました。ヨーロッパで教会に入り、一生懸命に

イエスはガリラヤでペテロに「わたしについてきなさい」と言われました。ピリポにも「わたしに従ってきなさい」と同様の指示を与えられました。まさにそのイエスは、その言葉を、皆さんやわたしにも向けておられます。「わたしに従ってきなさい」と。わたしたちは喜んで従おうとしているでしょうか。



貯金し犠牲を
払って、北アメリ
カへ移住しました。
右も左も分からず、言
葉も通じない、生活習慣
も異なる地でした。しか
し、教会は、自分が信じ
従ってきた、同じ主によっ
て導かれている教会です。
やがて彼は小さな支部の会
長に召されました。その
聖徒たちは教会員に幾分か
敵対感情のある町で奮闘して
いました。少ない人数で、責任
は山ほどありましたが、彼は教会
のプログラムに従いました。支部
の会員たちに、まさにキリストのよ
うな模範を示しました。そして会員
たちも比類ない愛をもってそれに
こたえました。

彼は商店を営んで生計を立てて
いました。あまり金銭的な余裕はあ
りませんでした。しかし、いつも完全
な什分の一^{じゅうぶん}を納め、そのほかにも献
金していました。彼はその小さな支部
で宣教師基金を始めました。しばらくの
間は、宣教師基金に献金するのは彼だ
けでした。町に宣教師がいるときは、食
事の世話をし、訪ねて来た宣教師には、そ
の働きへの感謝と、幸せを願う気持ちを込
めて、必ず何かプレゼントをしました。遠くか
らの旅の途中で彼の町を通りかかり、支部を

訪ねた教会員は、必ず親切なもてなしと心遣いを受けました。そして、並外れた人物、まさに主の従順な僕に出会ったことを確信しながら旅を続けました。

彼は自分を管理する立場の人に対して、心から敬意を示し並ならぬ心配りをしました。彼にとってその人たちは主の使いだったのです。指導者たちが快適に責任を果たせるように心を配り、特に祈りの中で指導者の福利をしきりに求めました。ある安息日に支部に来た指導者たちは、様々な集会や会員への訪問の際に、何度も彼と一緒に祈りをささげました。その日の夜、指導者たちはとても爽快で、霊的にも高められた気持ちで、彼に別れを告げました。その後の4時間は冬空の下でのドライブでしたが、ずっと楽しい気分でした。この出来事は、何年もたった今でも霊を温め、心を活気づけてくれる思い出になっています。

学識のある人、人生経験豊かな人たちが、この謙虚で無学な、神に仕える人を探し出し、1時間でも一緒にいられたら幸せだと思えるほどでした。彼は取り立てて優れた容貌をしているわけでもなく、話す英語はたどたどしくて、理解するのも幾分難しいものでした。また、つましい家に住み、自動車もテレビも持っていませんでした。本を書いたことなどありませんでしたし、雄弁に説教することもありませんでした。世間の人々がたいへん注目するようなこともまったくありませんでした。しかし、数多くの忠実な人がひっきりなしに彼を訪ねて来ました。なぜでしょうか。それは、彼のもとにある「真理の泉」から水を飲みたいと願ったからです。彼の語ったことではなく行ったことに対して、また、彼が話した説教よりも、実際の生活の中に見られる力に対して、人々は感謝しました。

この貧しい人は少なくとも収入の10分の2を、いつも喜んで主にささげていました。そのことは、什分の一のほんとうの意味について、わたしたちに明らかな理解を得させてくれました。飢えた人を助け、旅人を家に泊める彼の姿を見ることで、彼が主に対してするであろうことをしたということが分かりました。ともに祈り、彼が主の執り成しをいかに信頼しているかを感じ取るのは、祈りに対する認識を新たにする機会となりました。

彼は第一の大切な戒め、そして、それと同様である第二の大切な戒めに従順だったと言えるのではないのでしょうか。¹¹ すべての人に対して心に慈愛を満ちし、絶えず徳で思いを飾り、それによって、神の前において自信が増し加えられたのです。¹²

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 視覚教材として用いるために、水を入れた容器を用意する。ポンセ・デ・レオンの話を紹介し、以下のモンスン大管長の言葉について説明する。「もっと貴い水、すなわち永遠の命をもたらす別の泉が存在します。それは、真理の泉です。」真理をどこでどのように見つけることができるか、そして、「真理の泉」に到達するためには何をしなければならないとモンスン大管長が述べているかについて、家族とともに話し合う。従順であることによって、人生でどのように祝福を得てきたか証をする。

2. 「戒めに従う」の項を読み、「わたしたちは喜んで従おうとしているでしょうか」というモンスン大管長の問いかけについて話し合う。このメッセージの最後に紹介されている謙虚な男性の話分かち合う。救い主に従順で、喜んで従おうとする彼の姿勢は、ほかの人にとってどのように祝福となっただろうか。主に喜んで仕えることを示すためにできることを深く考え、実行するよう家族に勧める。

この人は慈しみと義を輝かせていました。彼の力の源は、その従順さにありました。

この複雑で激しく移り変わる世界の様々な問題に対処するための力を、今日わたしたちは熱心に求めています。その力は、ヨシュアのように不屈の精神と毅然とした勇気をもって「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」と立って宣言するとき得られることでしょう。¹³ ■

注

1. ジョン・ジェイクス「真理は何と言えよ」『賛美歌』175番
2. 教義と聖約93:24, 26-28
3. サムエル上15:22
4. 1ニーファイ3:7
5. アルマ17:2-3
6. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1957年4月, 8;またはImprovement Era, 1957年6月号, 391
7. 教義と聖約132:5
8. マタイ4:1-11参照
9. ルカ22:42
10. マタイ4:19;9:9;ヨハネ1:43。マタイ19:16-22;マルコ2:14;ルカ18:18-22も参照
11. マタイ22:37-40参照
12. 教義と聖約121:45参照
13. ヨシュア24:15

価値ある待ち時間

バレリア・サレルノ

死者のためのバプテスマを受け、ワードの青少年とともにアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿に参入したときのことで。受け付けの部屋で数分待ちました。その後、神殿ワーカーの人たちから、廊下を進んで行くと幾つかいすがあるのでそこで再び待つようにと言われました。

その日は土曜日だったので、アルゼンチン中から多くの人々が神殿に来ていました。わたしたちはそこでただ静かに座って2時間半待ちました。あまり喜ばしくない思いがわたしの心を巡り始めました。「どうしたらこんなに長い間わたしたちを待たせることができるのかしら。もう疲れちゃったわ。来ない方がよかったみたい。時間の無駄なのよ。」

わたしは立ち上がって廊下を歩き始めました。するとワーカーの一人がやって来て言いました。「若人の皆さん、どうかいらいらしないでください。皆さんが長い時間待っているのはよく分かります。でもいいですか。霊界では何世紀もの間、無数の人がこの瞬間を待ち望んできたのです。そして、自分の番がやって来るのを待ち焦がれているということをわたしは断言できます。儀式を執行する兄弟たちはバプテスマと確認の儀式をしているところです。今している以上のことはできないのです。」

彼がこのように語ったとき、わたしは恥ずかしくなりました。身勝手だったことに気づいたのです。わたしと違って地上で真実の教会について聞きバプテスマを受けるチャンスがなく、長い間儀式を待ち望んでいた人たちに、わたしは自分の時間をささげたいと思っていなかったからです。

同じワーカーがもう一度やって来て、ワードの青少年の名前を呼び始めました。一人の姉妹が、それぞれにサイズの合う白い衣服を渡してくれました。着替えた後、その姉妹はわたしたちの髪を後ろに束ね、白いひもで結んでくれました。

その後、はだしでバプテスマ室のベンチまで歩きました。カーベットはとても柔らかくて毛足が長く、床を歩いているとは思えないほどでした。

順番が来ると、わたしは自分のバプテスマの日のように緊張していました。でもワーカーの人たちはとても優しく、わたしたち一人一人に穏やかに接してくれたので、素晴らしい経験になりました。

バプテスマフォントから出ると、一人の姉妹が大きな白いタオルを持ってにっこり笑って待っていました。わたしは衣服を着替え、確認の儀式の部屋に入りました。先ほどタオルをくれた姉妹と一緒に来て、主の業を進んで行っていることを感謝してくれました。

神殿を出たとき、この日のことが人生で特に貴重な経験になったことを実感しました。神殿は聖なる場所であり、主の御霊みたまがそこにあつて、主の偉大な業を導いています。それは幾らでも待つ価値のあることなのです。■



平安の場所

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

16歳のディルシア・ソトは、神殿が生まれ故郷ドミニカ共和国のサントドミンゴで奉獻された日のことを今も覚えています。「当時わたしはまだ9歳でしたが、こう言いました。『すごいわ。神殿がここにあるなんて。』それまで結び固めを受けたり聖約を交わしたりするために他国へ行く人たちを何度も見てきました。それでこう思ったのです。『これで、わたしたち家族はもうよその国に行かなくていいんだわ。だって、近くに自分たちの神殿があるんですもの。』」

現在、神殿はこの国の首都に荘厳にそびえ立ち、尖塔とよく手入れされた庭はとても目を引くので、通りかかる人の多くは、

ドミニカ共和国に住むこの二人の若い女性にとって、
神殿はただ美しい建物であるというだけではありません。
神殿は、彼女たちのこの上ない希望と夢を
鮮明に思い起こさせてくれる場所でもあります。

きっとこの建物はどこかの教会の大聖堂だろうと思込んでいるようです。ディルシアは、神殿は大聖堂にも勝って神聖な建物であると説明するのをうれしく思っています。騒がしい通りや繁華街の雰囲気とは打って変わり、神殿の敷地には静かな威厳があります。

ディルシアと友達で14歳のケルシア・セント・ガーディエンがこの平安の場所に来たのは、少し前のことでした。二人とも、ドミニカ共和国サントドミンゴ・インデペンデンシアステークのミラドルワードの会員です。死者のためのバプテスマを受けるために神殿に何度か参入したことがありました。しかし、この日、二人はただ、神殿の庭を歩き、話をし、神殿の内に満ちる御霊を外から感じ取るために訪れたのです。

ディルシアの願い

ディルシアはこう言っています。「わたしは、主に対してとても大きな愛を抱いています。主が生活においてしてくださったことに心から感謝しています。わたしの家族は教会員です。でも、おば、おじ、いとこは会員





ではありません。彼らがうちに来るときはいつもモルモン書を用意しています。福音を紹介する機会があるかもしれないからです。」また、友達や「ほんとうに興味を持ってくれるすべての人に」福音を伝えています。「そうするときいつも御霊をととも強く感じます。証^{あかし}をする度に、教会が真実であることを繰り返し感じるのです。」

ディルシアは救いの計画について学んだセミナーのレッスンをよく覚えています。「創世の前に、わたしたちは天上の大会議に出席しました。そして、天の御父に従うことを選び、イエス・キリストが身代わりとして払ってくださる犠牲を受け入れたのです。教師はこう説明してくれました。『わたしたちがそのときに天の御父に従ったことが分かります。なぜなら、今骨肉の体を授かってこの地上にいるからです。』彼がそう話したとき、それは真実だと確信しました。その晩、祈りの中で、わたしは泣きながら、この知識を与えていただいたことを神に感謝しました。」



ディルシアはコリント人への第一の手紙第3章16節を引用しています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」

ディルシアはコリント人への第一の手紙第3章16節を引用しました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿していることを知らないのか。」そしてこう言いました。「もしわたしも神殿であるなら、わたしは神殿のように清く、麗しくなる必要があります。この教会に属し、徳高い若い女性でいられることは何とすばらしい祝福でしょう。」

最大の望みは、いつの日か再び天の御父とともに住むことだと彼女は言います。「みもとに戻



わたしたちの中の神殿

「距離や個人の事情が許すかぎり、頻繁に神殿に参入するなら、神殿がわたしたちの中にあるでしょう。そうすれば、人生のどんな苦難に遭っても、常に『聖なる所』に立てるでしょう。」

七十人 ランス・B・ウィックマン
「汝ら聖なる所に立つべし」
『聖徒の道』1995年1月号, 91 参照

るために必要なすべてのことを行えるよう、天の御父が神殿を与えてくださったことをとても感謝しています。御父に感謝する最も良い方法は、御父が望んでおられる生き方をすることです。」

さらにディルシアはこう言っています。「主はわたしたちに主の宮に参入し、主について学び、主とともに永遠に住むことを目指して努めるよう望んでおられます。」そして、死者のためのバプテスマに参加することが好きな理由は、「幕の向こう側で待っている人たちが自分でできないことを代わりにしてあげることは、彼らを助ける一つの方法だから」だと言います。

ケルシアの決意

ケルシアも同じ考えです。「先祖はわたしたちがこの業を行うことを必要としています。彼らはきっと、わたしたちに感謝するでしょう。わたしは現世で会うことのなかった祖母に会うことを特に心待ちにしています。祖母のためにすべての神殿の儀式が行われるようにします。」

神殿について話すと、ケルシアは感動に包まれます。彼女はこう言います。「家族に結び固められるような選りをしていこうと決意しています。わたしたちは、福音を尊んで、アル・ピエ・

デ・ラ・レトラ(*al pie de la letra*)〔聖文に記されているとおりに厳密に〕の意のスペイン語〕の精神で戒めに従わなければなりません。そのようにするのは天の御父を愛しているからです。そして、従順は御父に感謝を表す手段なのです。』

ケルシアの家族は2006年12月に教会に入りました。両親がハイチからドミニカ共和国に移住して来て6年たったときのことでした。「我が家のドアをノックしてくれた宣教師に心から感謝しています。御霊を感じ、わたしたちのために用意された天の御父の計画について学ぶのは素晴らしい経験でした。福音が生活に入ってきたおかげで、わたしたち家族はさらに強く結ばれました。どんなに苦しいときにもしっかりと一致していただける家族を御父が下さったことに感謝しています。家族が永遠に結び固められるという特権にあずかることができることを思うと、それがあらゆることの中で最大の祝福だと思います。」

ケルシアの両親は、今、神殿準備クラスに参加しています。そのおかげで、ケルシアは自分が将来神殿で結婚する日に備えることを思い起こすことができます。「わたしのいちばんの目標は、将来の夫とわたしが互いにとってふさわしくなるとともに、永遠の家族となるふさわしさを身に付けることです。」



安らぎを分かち合う

二人は国旗を掲げたポールのわきを通りかかりました。国旗は一陣の風にひるがえっています。「神殿に掲げた国旗で

SANTIDAD AL SEÑOR
LA CASA DEL SEÑOR

さえ、忠実であることを思い起こさせてくれます」とディルシアは言います。「この国旗は、単に幾つかの色を並べただけではないんです。それには、デョース、パトリア、リベルタッド(*Dios, patria, libertad*)〔神、国家、自由〕というモットーが込められていて、キリスト教徒の十字架と十戒を表しているのです。つまり、わたしたちの国が神を信じる人々によって建国されたことと、この国では神が今も重要視されていることを思い起こさせてくれるのです。」

二人は神殿の正面玄関まで歩いて来ました。そこには、すべての神殿でもそうであるように、サンティダトゥ・アル・セニョール、ラ・カサ・デル・セニョール(*Santidad al Señor; la Casa del Señor*)〔主の宮居、聖きを主に捧ぐ〕という言葉が玄関口の上に刻まれています。

「この言葉を読む度に、それが真実であるという力強い証に満たされます。」ディルシアは言います。「ただ神殿の敷地を訪れるためだけに、ミュージアルのグループとここに来たことを覚えています。訪問を終えた後、ビショップからそこで何を感じたか尋ねられました。皆で話し合い、まさにその答えとなる一言を思いつきました。それは『平安』です。」

ケルシアとディルシアはその完璧な答えについて考えながら歩いて行きました。その答えが完璧なのは、神殿がまさに平安の場所だからです。■

ドミニカ共和国の教会の青少年に関する記事は、『リアホナ』2009年3月号の「搜索救助」にも掲載されています。

神殿 の 祝福



神殿は
昇栄に備えるために
不可欠な
救いの儀式が行われる
聖堂、すなわち
神聖な場所です。

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

神殿のエンダウメントに
よる祝福は、バプテスマと同様、わたしたち

一人一人にとって欠かせないものです。だからこそ、神の宮に参入するために清くあるよう、自らを備えなければなりません。

神殿に参入し、そこで交わす聖約を身に受ける機会、現世で授かる最高の祝福の一つです。そして、聖約を受けてから、日々聖約に従って生活することは、わたしたちの信仰、愛、献身を示し、天の御父や御子イエス・キリストを敬うという霊的な決意の表れとなります。また従順によりわたしたちは、御父や御子とともに永遠に住む備えをすることができます。神殿の救いの儀式は、幸福の永遠の計画には欠かせないものであり、その計画の中心とさえ言えるものです。

神殿の教義

神殿はまさに「世にあつて世のものではない」場所です。問題を抱えたり、心の重荷となっている重要な決断をしたりするとき、心配の種を神殿に持って行き、霊的な導きを受けることができます。



わたしたちは神殿が主の宮であるという証を得、敬虔な思いを持つ必要があります。神殿の神聖さを保つため、また儀式を受け聖約を交わしに聖なる神殿に参入する人々に祝福を与える御霊を

招くため、清くないものは神殿に入ってはならないと教えられています。神殿内の敬虔さは、神殿の中に常に宿るよう御霊を招くのに不可欠な要素です。

少年のころ、父はわたしをニューヨーク州ロングアイランドからソルトレーク神殿に連れて行き、神殿の敷地を歩いたり、神殿に触れたり、わたしの人生にとっての神殿の大切さを話したりしてくれました。いつか神殿の儀式を受けるためにまた来ようと決心したのはそのときです。

歴史を通して、どの神権時代にも、主の民が神殿の儀式を受けられるよう、主は神殿を建てるよう預言者に命じてられました。モーセとイスラエルの民は可動式の神殿、すなわち幕屋により祝福を受けました。幕屋ではモーセの律法の下で神聖な儀式が行われました。また、時折、主が来てモーセと語られた場所でもあります。ソロモン王はエルサレムに美しい神殿を完成させました。この神殿は後に破壊されました。その後、キリストが地上で教え導かれたとき、エ

ルサレムにもう一つ神殿が建てられました。

モルモン書にはニーファイが「ソロモンの神殿に倣って」神殿を建てたことが記されています(2ニーファイ5:16)。ヤコブやベニヤミン王を含むほかのニーファイ人の預言者たちは、神殿で民を教えました(モルモン書ヤコブ1:17; モーサヤ1:18参照)。

復活された主イエス・キリストが紀元34年にニーファイ人に現れたとき、神殿に来られたのは意義深いことです(3ニーファイ11:1-11参照)。

預言者ジョセフ・スミスは「神権の儀式が執行される場所として神殿が建設されて初めて、教会はその正しい秩序において完全に組織されるのです」と教えました。¹

カートランド神殿はこの末日の最初の神殿であり、神権の鍵かぎの回復に重要な役割を果たしました。ジョセフ・スミスは祈りの答へとして、1836年4月3日にカートランド神殿でイエスの訪れを受けました(教義と聖約110章参照)。救い主は栄光の中に現れ、カートランド神殿を主の宮として受け入れられました。その折、モーセ、エライアス、エリヤも現れ、彼らが持つ神権の鍵をゆだねました。エリヤはマラキが約束したように結び固めの権能の鍵を回復しました。わたしたちが人生において神殿の祝福を完全に享受するためです。

先祖の開拓者たちはノーブー神殿を建設し、そこで神聖な儀式を執り行いました。ノーブー神殿はエンダウメントや結び固めが行われた最初の神殿です。大平原を渡り、ソルトレーク盆地のシオンにたどり着くまで苦難を堪え忍んだ開拓者たちにとって、それは大きな力となりました。彼らは聖なる神殿で力を授けられました。夫と妻は互いに結び固められ、子供は両親に結び固められました。多くは旅路の途中で家族と死別しましたが、彼らにとって死が終わりではないことを知っていました。神殿において永遠に結び固められていたのです。その後、ブリ



モ ーセと
イスラエルの
民は
可動式の神殿、
すなわち幕屋により
祝福を受けました。
幕屋では
モーセの律法の下で
神聖な儀式が
行われました。
また、時折、主が来て
モーセと語られた場所
でもあります。

ガム・ヤング大管長が受けた啓示により、聖徒たちは西部にさらに神殿を建てました。

今日、130の神殿で儀式が行われており、世界中の忠実な教会員が神殿の儀式を受け、主と聖約を交わすために主の宮に行けるようになっていきます。

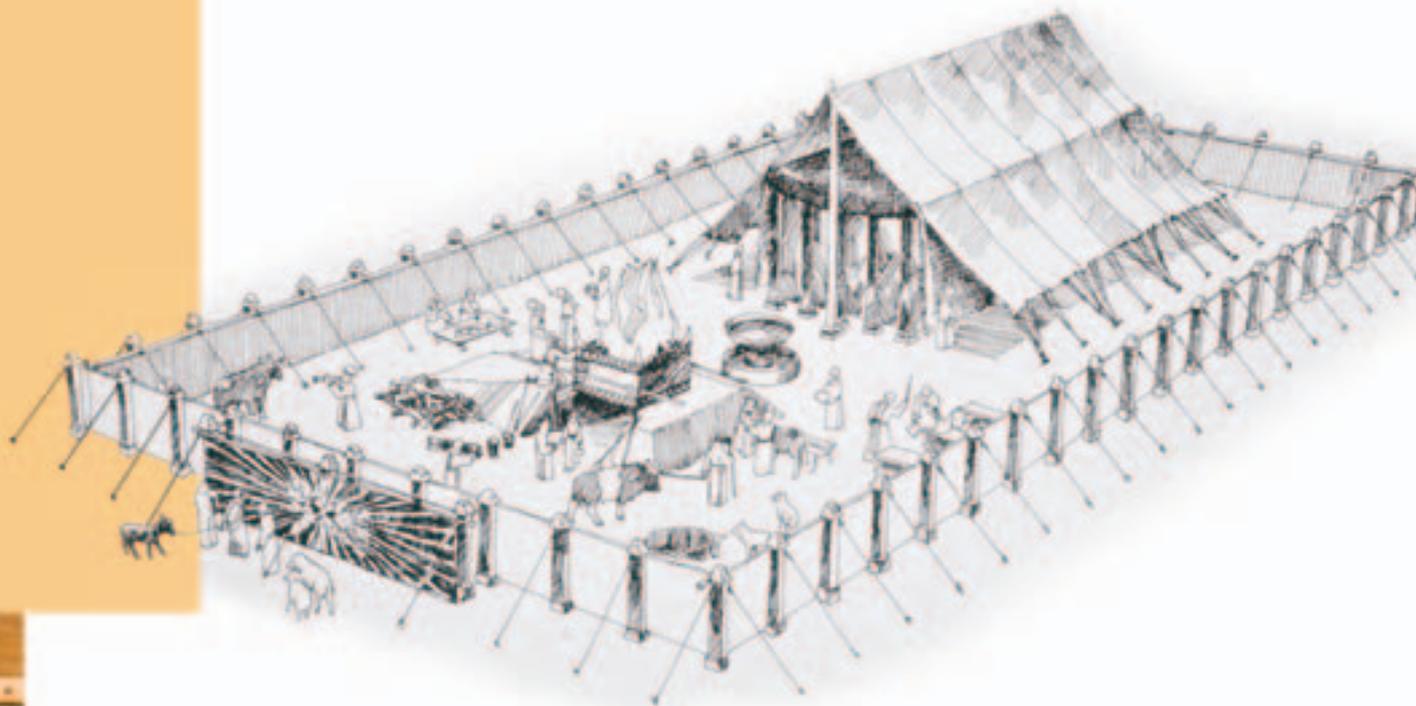
神殿の儀式

神殿の第一の目的は日の栄えの王国における昇栄に必要な儀式を行うことです。神殿の儀式はわたしたちを救い主へと導いてくれ、イエス・キリストの贖罪を通してもたらされる祝福を与えてくれます。神殿は人に知られている中で最も偉大な学び舎です。そこでは天地創造についての知識と知恵が授けられます。エンダウメントで与えられる指示は、現世での生活をどのように送るべきかについて指針を与えてくれます。エンダウメントという言葉の意味は「贈り物」です。エンダウメントの儀式は、どのように生きるべきかについて、また、救い主に従うことによって義にかなった生活をするために交わす聖約についての一連の指示から成っています。

もう一つの大切な儀式は、日の栄えの結婚において永遠に結び固められることです。この結婚の聖約により子供は両親と結び固められ、聖約の子は永遠の家族の一員となることができます。

教義と聖約は次のように教えています。「あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、またわたしの名によって、またわたしの言葉によって、あなたが地上でつなぐことは何でも天で永遠につながれる、と主は言う。」(教義と聖約132:46)

夫婦が聖壇にひざまずくとき、わたしは結び固め執行者として主の代理を務めていることを自覚します。わたしは地上で結ぶことは何でも文字どおり天で結ばれることを知っています。結び固められる人が忠節を守り最後まで堪え忍ぶならば、そのきずなは決して解かれることはないのです。



長年にわたり、わたしは多くの夫婦を見てきました。神殿で受けた聖約に忠実であり続け、堅固で活気のある結婚生活を保ってきた夫婦です。このような円満な夫婦には幾つか共通点があります。

第1に、夫と妻がそれぞれ、互いに自分が何者なのかを、すなわち神の息子、娘であることを知っています。もう一度天の御父と御子イエス・キリストとともに住むという永遠の目標を立てています。生まれながらの人としての生き方を捨てようと懸命に努力しています(モーサヤ3:19参照)。

第2に、教義を知り、神殿の救いの儀式と神殿の聖約が重要であり、永遠の目標の達成に必要なだと知っています。

第3に、この世での一時的な財産よりも神の王国の永遠の祝福を得る方を選んでいきます。

第4に、これらの夫婦はこの世から永遠にわたって結び固められるとき、永遠の伴侶を選んだということを理解しています。結婚相手を探す期間は終わったのです! もうほかの人を探し求める必要はないのです!

第5に、自分自身よりも相手のことを考えています。身勝手さは霊的な感性を失わせます。祈りによって主と心を通わせる夫婦はともに成長し、離れることはありません。よく話し合い、そのおかげで、小さな問題を大きな問題に発展させることは決してありません。不愉快な思いをさせることを恐れずに、「小さな悩み」について早いうちから話し合います。このように、不快を感じたときにすぐに気持ちを告げるなら、怒りを爆発させることはないのです。圧力なべのふたが飛ぶ前に、蒸気を少しずつ逃がす方がずっとよいのです。愛する相手を傷つけてしまったときには、進んで謝罪し赦しを請います。互いへの愛情を表し、より親密になります。励まし強め合うのです。



神殿の祝福

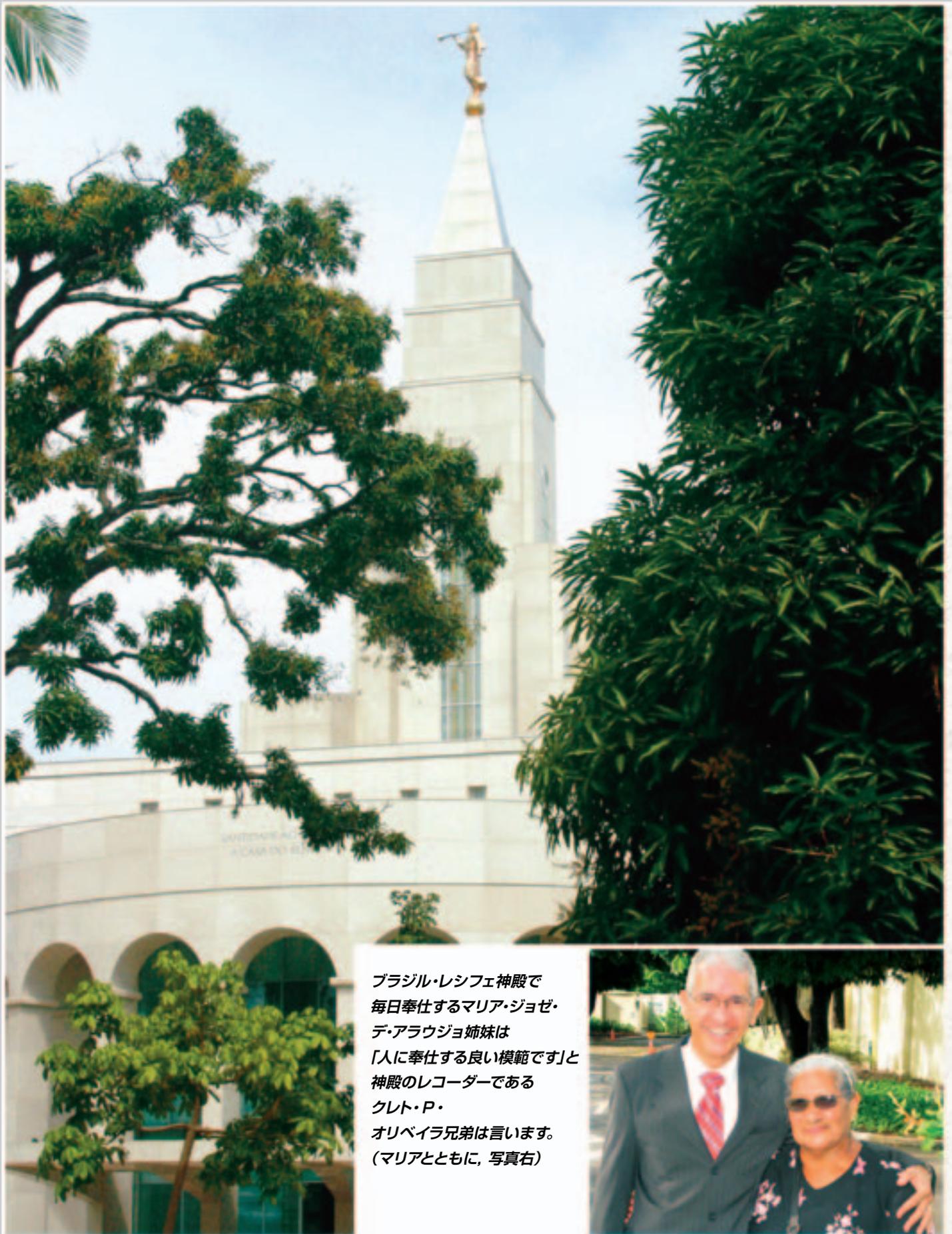
神殿は昇栄に備えるために不可欠な救いの儀式が行われる聖堂、すなわち神聖な場所です。聖なる宮に参入する準備をすることや、儀式に参加し聖約を交わすことは、現世で経験する一大事であるという確かな知識を得るのは大切なことです。

わたしたちは「すべての事物には反対のものが」あることを理解しつつ(2ニーファイ2:11)、選択の自由を用いて自ら進んで父なる神のもとからこの試しの生涯にやって来ました。わたしたちの目標は、神の武具をすべて身に着け、信仰の盾と御霊の剣を持ち「悪い者の放つ火の矢」に立ち向かうことです(教義と聖約27:15-18参照)。また、最後まで堪え忍び、父なる神と御子イエス・キリストの前に立ち、永遠とともに住むにふさわしくなる、すなわち永遠の命と呼ばれるものを手にすることです。■

2005年11月15日のブリガム・ヤング大学でのディボーショナルにおける説教から。英語による説教の全文は <http://speeches.byu.edu> をご覧ください。

注

1. *History of the Church*, 第4巻, 603



ブラジル・レシフェ神殿で
毎日奉仕するマリア・ジョゼ・
デ・アラウジョ姉妹は
「人に奉仕する良い模範です」と
神殿のレコーダーである
クレト・P・
オリベイラ兄弟は言います。
(マリアとともに、写真右)

奉仕する特権

教会機関誌

マイケル・R・モリス

ブラジル・レシフェ神殿の扉がいつものように救いの儀式を執行するために開く前に、70歳になるマリア・ジョゼ・デ・アラウジョ姉妹はいつものように無私の奉仕の準備をするために起床します。

神殿に行くために、マリアは4つのバスを乗り継ぎ、1時間半かけてブラジル北東沿岸にあるレシフェ南側のサント・アグスティノ岬の家から旅をしなければなりません。しかし出かける前に、自宅で面倒を見ている目の不自由ないとこのために食事や日用品を用意します。

「マリアは奉仕の良い模範です」と神殿のレコーダーであるクレト・P・オリベイラ兄弟は言います。「2000年12月に神殿が奉獻されて以来、彼女は神殿が開いている日は毎日ここで自発的に奉仕しています。祝日にさえ来ています。」

火曜日から土曜日の午前7時から午後3時まで、マリアは神殿の食堂で働き、皿を洗ったりサラダを作ったりしています。もっと長く働きたいけれど、バスで帰る道のりが長いので、暗くなる前に家に帰れるよう、早めに出ないといけないと言うのです。

オリベイラ兄弟はマリアに、毎日神殿に来る必要はないと伝えますが、マリアの代わりには二人必要になるだろうと思っています。「彼女はただほほえみ、人生を主にささげているのだと言うのです。」

マリアにとって、毎日神殿で奉仕することは大きな特権です。

「天の御父は健康という祝福を与えてくださいました。わたしの目標は健康が許すかぎり毎日神殿に来続けることです」と彼女は言います。「わたしは自分のすべての才能と能力を主への奉仕にささげると聖約しました。神殿での奉仕を終えて家に着いても、疲れは感じません。そのように主が祝福してくださっているのです。」



**「神殿に来ない人は
すばらしい
機会と祝福を
逃しています」と
マリア・ジョゼ・デ・
アラウジョ姉妹は
言います。」**

以前、ワードの家族歴史センターで6年間奉仕していたとき、マリアは自分の家系を調べました。その後、神殿の食堂で働くようになる前、多くの土曜日の午前中を使って、4代にわたる女性の先祖の身代わりの儀式をすべて終えました。4代にわたる男性の先祖の儀式も完了しました。

自身の家族歴史を調べ始めたとき、マリアはこの作業は不可能だと感じました。特に2組の曾祖父母の名前を見つけ出せなかったときにそう感じました。しかし、ある夜、夢の中で彼らの完全な名前が明らかにされました。初めは名前が正しいかどうか疑問に思いましたが、母親の記録をたどってみたとき、その名前を見つけ、それまでつながらなかった家系をつなげることができたのです。あの夢は主とその子供たちに奉仕する努力に対して与えられた祝福だと彼女は信じています。

「神殿はわたしの人生です」とマリアは言います。「神殿に来ない人はすばらしい機会と祝福を逃しています。神殿で奉仕することによって、神殿のほんとうの意味と力を理解するようになります。」■

神殿に頻繁に参入する民

教会機関誌

ライオン・カー

ゲーリー・タッカー兄弟と妻ジェニファー姉妹には夢がありました。二人とも、永遠の家族を欲していたのです。しかし、ジェニファーにとって夢はかないそうにありませんでした。夢がかなう道は神殿に通じていましたが、ゲーリーには準備ができていなかったのです。

そのころ彼らのビショップは靈感によって一つのアイデアを思いつきました。タッカー家族だけでなくモンタナ州ボーズマンステーク、スリーフォックスワードの多くの会員が永遠の家族という夢をかなえる助けとなるアイデアでした。数年前、ビショップのアロン・バクザックはビ

ショップと新会員のために開かれたステークの集会に出席していました。司会の地域七十人がある新会員に尋ねました。「死者のためのバプテスマを行うために神殿に行ったことがありますか。」ビショップにはその経験がありました。

バクザックビショップはそれまで、エンダウメントを受けていない成人会員を神殿に連れて行くことを考えたことは一度もありませんでした。翌週、モンタナ州ビリングズ神殿にワードの成人会員が死者のためのバプテスマを行う予約をしました。神殿訪問は成功しました。その後数か月、ワードの長老や大祭司たちは、エンダウメントを受けていないさらに多くの成人会員とともに神殿に行きました。「彼らにとって非常に霊的な



家族歴史、
親しい交わり、
死者のための
バプテスマを通じて、
成人会員は
神殿で
自身のエンダウメント
を受けたいという
気持ちになります。

経験であることが分かりました。エンダウメントを受けるという望みと決意が増したのです」とバクザックビショップは言います。

準備

準備するため、成人会員は神殿参入にふさわしくなるようビショップと協力します。そして神殿準備クラスを受けます。クラスに対する彼らの関心は、死者のためのバプテスマを行った後は実際に高まるのです。クラスで神殿について話すことと、神殿の中で主の御霊を実際に感じることは別物だということが分かるのです。

「新たな聖約を交わす備えはできていなくても、儀式に参加することが可能な人を神殿に連れて行けるという選択肢があることは大きなことです」とバクザックビショップは言います。「これは神殿準備の小冊子の中で教会が伝えようとしている趣旨に合っていると思います。小冊子は最初に『神殿へようこそ』と呼びかけています。」¹

スリーフォックスワードの長老定員会会長であるデビッド・ボイド兄弟は、バプテスマを行うために神殿に参入すれば目標まであと一歩だと感じるようになると言います。「自身のエンダウメントを受けられるという可能性を思い描くようになります。彼らの多くは神殿の敷地に足を踏み入れたことさえあ



りません。ですから、成人会員のバプテスマは
そのような機会も与えることになります。」

ワードで最近活発になった会員の多くは、自
身のエンダウメントの前に死者のためのバプテ
スマを行っています。「ふさわしさの問題では
ありません」とバクザックビショップは言います。
「準備の問題なのです。幾人かはバプテスマを
行うふさわしさも準備もできていましたが、精
神的または霊的にエンダウメントの聖約を受け
る準備はできていませんでした。」男性会員に
とっては、メルキゼデク神権を受ける準備の時
でもあるのです。

家族歴史も神殿活動を推進します。例えばラ
リー・アイソム兄弟と妻キャロライン姉妹など、
ワードの会員は何百もの家族の名前を提供する
ためにワード家族歴史センターで働いています。
この3つの努力、すなわち神殿準備クラス、家族
歴史、神殿での礼拝が一体となるのです。家族
歴史を行う人は神殿に参入する人に喜んで名前

を提供します。神殿に参入する会員は自身や
ワード会員の先祖のために喜んで神殿活動
を行います。神殿に参入することにより、再び参入
する備えをしたいという気持ちを強めます。

過去数年間、スリーフォークスワードの会員の
うち22人が神殿準備クラスを受講しました。そ
のうち14人が死者のためのバプテスマを行う
ために神殿に定期的に参入し始めました。そ
して、神殿準備クラス修了後、その14人中13人
が自身のエンダウメントを受けました。数人は
独身だったり伴侶を亡くしたりしていました。
そのほかはゲーリー・タッカー兄弟とジェニ
ファー姉妹のような人たちが家族として結び固
められました。

親しい交わり

ゲーリーは1992年に教会に入りました。ジェ
ニファーと結婚する2、3か月前のことです。
ジェニファーはすでに教会員でした。しかし、

**結び固めの日に
モンタナ州
ビルリグズ神殿で喜ぶ
タッカー家族。
ゲーリー、ジェニファー、
コーディ、ギャレット**

ゲーリーは長時間勤務や悪い友人との付き合いのせいで、妻の支えがあったにもかかわらず、教会に活発でいるのは困難でした。長年「かみたばこをかんで、悪態をついて」いたと彼は言います。

娘のコーディが生まれたとき、タッカー姉妹は娘を教会に連れて行き、福音の中で育てようとなりました。しかし、タッカー兄弟は教会に関するものは何も家に持ち込まないでほしいと思っていました。家族には教会に行くよう促していましたが、自分には行きませんでした。コーディは8歳になったとき、父親からではなく宣教師からバプテスマを受けました。タッカー兄弟はこう言います。「バプテスマを見ることができたのはとても幸せでしたが、大きな悔いが残っています。施したのではなく、ただ見ていたのですから。」

その後数年にわたって、ゲーリーが教会の活動に戻るのに親しい交わりが助けとなりました。ジェニファーはワードの会員や宣教師を夕食に招待しました。ゲーリーと話す機会になればよいと思ったからです。彼はこの会員や宣教師が良い影響を与えてくれたことに感謝しています。

例えば、ジェニファーの母親のホームティーチャーであるデール・プライス兄弟は、そのよう

にしてゲーリーやジェニファーと知り合いました。プライス兄弟がタッカー兄弟を訪問したとき、最初は福音については話しませんでした。狩りなど、共通の関心事について話したのです。ワードの活動の際は、プライス家族はタッカー家族の隣に座ったりもしました。タッカー兄弟が失業したときは、貯蔵食糧の中から食べ物を持って行きました。そして自家製の蜂蜜はちみつも提供しました。タッカー家族は皆トーストに蜂蜜をつけて食べるのが大好きなのです。プライス兄弟が説明するように、その小さな贈り物が「密な関係を築いた」のです。

小さな、簡単なことを行う

ステーキ会長の助言もタッカー家族の助けとなりました。デビッド・ヒープ会長は「7つの小さな簡単なこと」を行うようステーキの会員に求めました。(1) 毎日個人で聖文を読む、(2) 少なくとも週に5日は家族で聖文を読む、(3) 毎日朝晩に個人の祈りをささげる、(4) 毎日朝晩に家族の祈りをささげる、(5) 家族で毎週日曜日に教会に通う、(6) 毎週月曜日の夜は家庭の夕べを行う、(7) 毎月神殿に参入する。

ゲーリーは家族がより一致するのにこれらの事柄が役立つということが理解できました。家

スリーフォークス
ワードの会員は
モンタナ州
ビルングズ神殿での奉仕に
2時間半かけて
定期的に車で行きます。
参加者のうちの数名は
死者のためのバプテスマを
行う成人会員です。
はんによ
伴侶とともに
自身のエンダウメントを受け、
結び固められる準備を
しています。





より善い民になるでしょう

「すべての人が定期的に神殿に参入するよう願っています。12歳以上の子供たちが死者のためのバプテスマを受けに神殿に参入する機会があるよう願っています。もしわたしたちが神殿に頻繁に参入する民であるなら、より善い民になるでしょう。より善い父親や夫に、より善い妻や母親になるでしょう。忙しいことは承知しています。やるべきことが山ほどあることも承知しています。しかし、もし主の宮へ行くなら、祝福され、生活がより善くなることを約束します。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)
“Excerpts from Recent Addresses of
President Gordon B. Hinckley,”
Ensign, 1997年7月号, 73

族の一致は彼が心から望んでいたことでした。そこでタッカー家族は家族の祈り、聖文学習、家庭の夕べを始めました。この取り組みはゲーリーにとって、神殿に行く準備をするというビショップの勧めを受け入れるのに役立ちました。

2006年1月、タッカー家族はビショップの家で行われたファイヤサイドに参加していました。バクザックビショップはゲーリーをわきへ連れ出し、神殿について話しました。まさにその場で、ゲーリーはこれ以上彼にとって誘惑とならないように、かみたばこの缶をビショップに渡しました。そのとき、またその後の面接で、ゲーリーはビショップに多くの質問をしました。ビショップは御霊にふさわしくなるよう、ゲーリー自身がバプテスマで交わした聖約に従って生活することの大切さを強調しました。

タッカー夫婦は神殿準備クラスを受け始め、ジェニファーは死者のためのバプテスマを行うために毎月ワードの神殿参入に参加するようになりました。ゲーリーは参入にふさわしくなるよう努力しました。娘のコーディは当時11歳でしたが、もうすぐバプテスマをしに神殿へ行けることに胸が高鳴りました。コーディが12歳になったとき、ゲーリーは娘とともに神殿に行くことができました。二人にとって初めての神殿でした。

コーディはこう言います。「すばらしかったです。神殿はとても平和なところです。お父さんが行ったことで、さらに大きな経験になりました。」ゲーリーは「初めて行って信じられないほどの平安と喜び」を感じたと言います。

次の日曜日の神殿準備クラスでは、ゲーリーは別人となっていました。「御霊の光を浴びたのです」と数年間そのクラスを教えているエルナ・スコフィールド姉妹は言います。ゲーリーはクラスが終わっても質問するために残りました。神殿で御霊を感じ、再び神殿に行きたいと思いました。今度は単にバプテスマをするのではなく、自身のエンダウメントを受け、家族と結び固められるためにです。

翌月、タッカー家族はビショップやほかのワード会員とともに再び神殿に参入しました。

試練を克服する

タッカー兄弟と姉妹が自身のエンダウメントを受け、結び固められる前の数週間、敵対者の誘惑を感じました。ゲーリーは進歩していましたが、まだ神殿に参入する自分のふさわしさに疑念がありました。永遠の家族という彼らの夢は近づきましたが、それでもなお手の届かないところにあるかのように感じました。タッカー家族は強さを求めて、もっとしばしば一緒に祈らなければならないことを知っていました。「すべては主の御手の中にあるという穏やかで平和な気持ちや安心感という形で、いつも強さを得ました」とタッカー姉妹は言います。「わたしたちが神殿の中を歩くその瞬間まで、主の穏やかな御霊が家族全員とともにいてくださいました。」

ゲーリーとジェニファーは自身のエンダウメントを受けた後、子供たち、すなわちコーディとギャレットとともに白い服に身を包み、結び固めの部屋にひざまずきました。6歳のギャレットは母親が

泣いているのを見ると、頬に手を伸ばして涙をぬぐいました。ゲーリーとコーディも喜びに泣きました。結び固め執行者でさえ感動しました。

今や家族はより強いきずなで結ばれ、より深く理解し合えるようになったとタッカー家族は言います。ゲーリーはこう言います。「今までよりも幸せになりました。妻とより親密になりました。それは子供たちにも分かります。」ゲーリーは教会員ではない自身の家族にとって自分は前よりも良い模範になっているように感じています。また、主が神殿を通してタッカー家族に与えてくださったのと同じ祝福をワードのほかの家族が望むようになればよいと思っています。■

注

1. 『聖なる神殿に参入する備え』(小冊子, 2002年), 1参照

新しい『福音の視覚資料集』

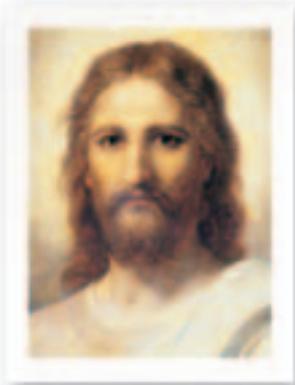
フルカラーの絵と写真137枚をらせん綴じにしたこの資料集は、手ごろな価格で入手でき、末日聖徒が福音を学び、教えるときに活用できます。

教会教科課程開発部

マイケル・G・マドセン



トーマス・S・モンソン大管長の執務室には画家ハインリッヒ・ホフマン作の救い主の絵が掛けられています。救い主が望んでおられることを行うように、この絵が促してくれるのだと大管長は言います。この絵がモンソン大管長を感化しているように、絵にはわたしたち一人一人に大きな影響を及ぼす力があります。



教会員に教会のクラスや家庭で使える絵を安価に提供したいという思いから、教会はこの度、137枚の絵や写真を取めた『福音の視覚資料集』を新たに出版しました。

この資料集は福音の教義クラスから初等協会の分かち合いの時間まで、様々なレッスンで役立つことができます。また、家庭の夕べ、個人の聖文研究、伝道、ホームティーチング、家庭訪問でも活用できます。

この資料集に収めた絵はどれも、聖文の物語を語り聞かせたり、原則を教えたりする機会を提供してくれます。使いやすさを考慮し、『福音の視覚資料集』には絵や写真と関連聖句などをまとめたリストを載せています。関連聖句を調べることによって絵に描かれている出来事や福音の原則をより深く理解することができるでしょう。

レッスンを教えるときに『福音の視覚資料集』を活用する方法として、以下の3つのアイデアを参考にしてください。

1 ある絵に関連する聖句を調べるように勧める。絵について話し合う中で、その聖句を声に出して読んでもらうか、要約してもらう。

2 絵に描かれているものを言ってもらおう。その絵はどのような福音の原則を教えているだろうか。それらの原則を今日のわたしたちの生活でどのように応用できるだろうか。

3 ある福音の原則を教えた後で、『福音の視覚資料集』の中からその原則を表す絵を探してもらおう。絵が示す意味を話し合った後に、改めてその絵を見て、どのように感じるか尋ねる。

福音を学び教えるときはいつも、靈感を受けられるように祈りましょう。(教義と聖約42:14-17参照)そうすれば、聖霊が、教える相手の必要に合った考えが思い浮かぶようにしてくださいます。新しい『福音の視覚資料集』は、わたしたちがキリストのもとに来て永遠の命の祝福にあずかれるよう互いに助け合ううえで役立つ、大切なツールです。■



視覚教材の力

「生徒の理解力と学習力を高めたいと望む教師は、視覚教材も用いる。ほとんどの人々は、教師が単に話すだけでなく、絵や地図、言葉のグループ分けや、その他の視覚資料を使用した場合に、より多く学び、学習したことをより長く記憶にとどめることができる。」

『教師、その大いなる召し』, 181



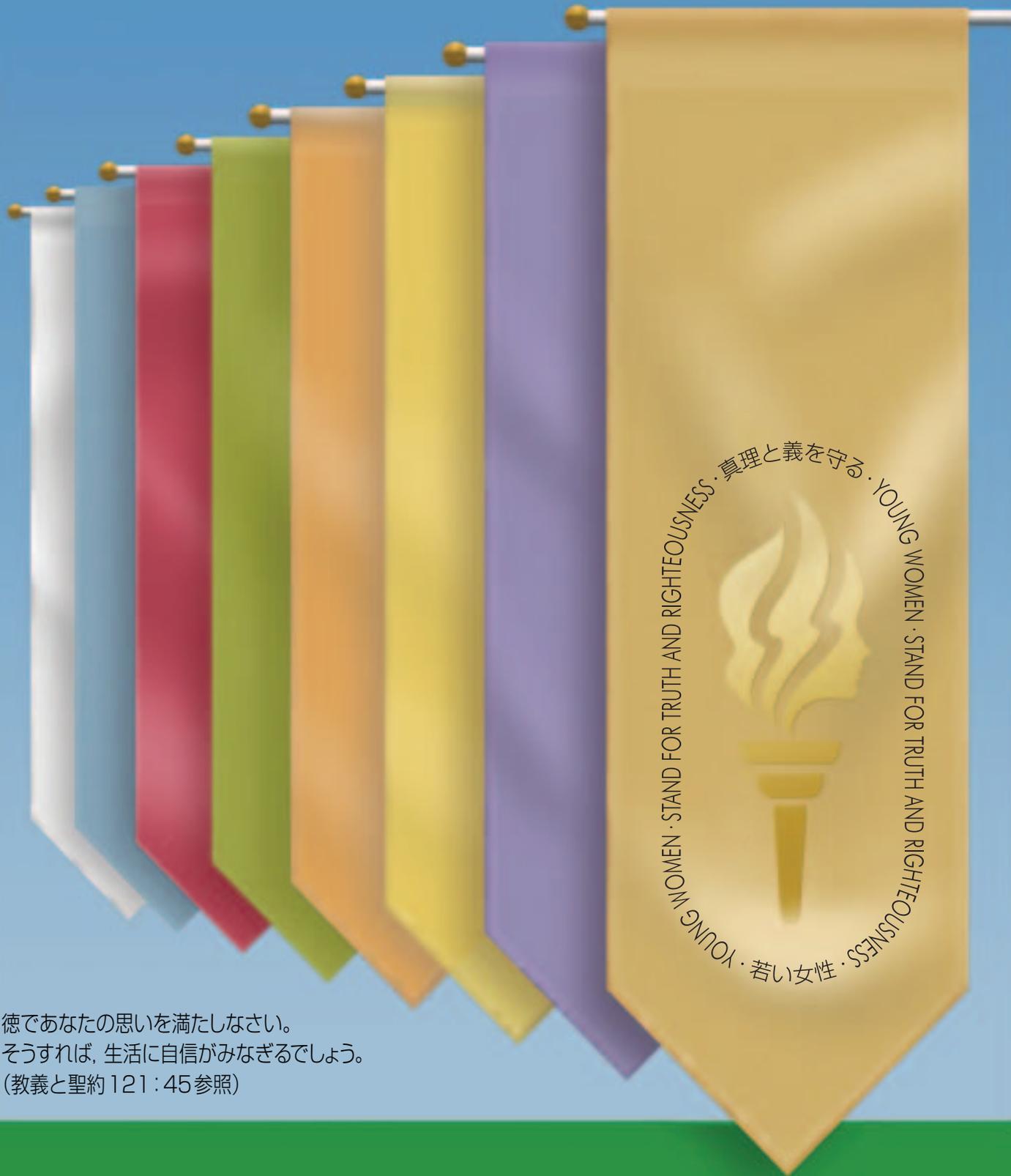
『福音の視覚資料集』は
どのように入手できますか。

1. www.gospelart.lids.org にオンライン版が掲載されています。
2. 『福音の視覚資料集』(アイテム番号06048 300)は最寄りの配送センターで購入することができます。
3. アメリカとカナダでは、インターネットで www.lidscatalog.com にアクセスするか、1-800-537-5971 に電話して注文することができます。



徳

黄金の標準



徳でああなたの思いを満たしなさい。
そうすれば、生活に自信がみなぎるでしょう。
(教義と聖約 121:45 参照)

次の世代を養い育てる



以下の聖句や言葉、または必要に応じて、訪問先の姉妹たちに祝福をもたらす原則を教えてください。その教義について証^{あかし}してください。また、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

教義と聖約 123:11——「これは……わたしたちが次の世代に対して……負っている、ぜひとも果たすべき義務である。」

次の世代に対して、わたしにはどのような責任があるのでしょうか。

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)——「主がこの時代のために取っておかれた[次の世代は]、人類史上特別な瞬間のために、今守られ……備えられなければなりません! 彼らはこの時代に生を受けるために引き止められていました。しかし、今こそ定められた任務に就くために前進する必要があります。……」

青少年と求道者には似ているところがあります。心が主に傾き始めたり、逆に離れ始めたりする決定的瞬間があるのです。その決断の瞬間は必ずしも意識的に作られるものではありませんが、その瞬間が訪れたときには、機を逸してはなりません。そのような瞬間は往々にして、親やビショップ、成人指導者、義^{けいけん}にかなった同世代の若者との、静かで敬虔な会話の中で訪れるものです。」「(“Unto the Rising Generation,” *Ensign*, 1985年4月号, 8, 10)

七十人会長会 ロナルド・A・ラスバンド長老——「大人になる旅路を歩む若者は、わたしたちが最善の努力を払って支援し強めるに値する人々です。……何を行うときも、どこへ行くときも、出会う末日聖徒の若人すべてを強め、養い、その生活に良い影響を与える必要性を、さらに強く自覚すべき時です。」「(教会の若者たち『リアホナ』2006年5月号, 47)

どうしたら次の世代を養うことができるでしょうか。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)——「この小さな子供たちは神の息子、娘であり、皆さんには彼らを養う責任があること、また、皆さんが親である以前に、神も彼らの親であり、御自身の小さな子供たちに対する権利や関心を保ち続けておられることを、決して忘れないようにしてください。子供たちを愛し、その世話をしあげてください。父親の皆さんは、今も、そしてこれから先も常に、自分の感情を制してください。母親の

皆さんも、声を荒らげることなく、穏やかに話すようにしてください。愛をもって、また主の薫陶と訓戒をもって子供たちを育ててください。小さな子供たちを大切にしてください。家庭の中に温かく受け入れ、心を尽くして彼らを愛し育ててください。子供たちは将来、皆さんが望まないようなことをするかもしれません。しかし、そのときはひたすら忍耐してください。努力を続けているかぎり、親の務めを怠ったことにはならないからです。」「(「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1998年5月号, 26-27参照)

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「養い育てるとは、養い、世話をし、成長させるという意味です。……養い育てるためには、まとまりと忍耐と愛と働きが必要です。養い育てることによって成長を助けることは、まさに女性に与えられた力と影響力のある役割なのです。」「(「真理を知る母親」『リアホナ』2007年11月号, 76, 77)

中央扶助協会会長会第二顧問 パーバラ・トンプソン——「扶助協会の姉妹として、わたしたちは家族を強めるために助け合うことができます。様々な分野で奉仕する機会を得ています。わたしたちが提供できるものをちょうど必要としている子供や若人に、絶えず接する機会があります。年配の姉妹の皆さんは、多くの良いアドバイスや経験談を若い母親たちに伝えられるでしょう。若い女性の指導者や初等協会の教師の言動が、親の教えようとしていることを強調するうえでまさに必要なことであつたりもします。また、友人や隣人に助けの手を差し伸べるのに、特別な召しは必要ありません。」「(「わたしはあなたを強くし、あなたを助ける」『リアホナ』2007年11月号, 117) ■



仕えることの祝福

救い主の模範に従って仕えるとき、
教会員は人を祝福し、
あかし証を強めることができます。

トーマス・S・モンソン大管長が人に仕える模範を示してきたことは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ならだれでもよく知っています。60年以上の間、大管長は数え切れないほどの人たちに慰めと平安をもたらし、病気の人や苦しんでいる人に個人的に仕えて、困っている人たちを助けてきました。¹

モンソン大管長は次のように宣言しています。「兄弟姉妹、今、励ましを必要とする人々がいます。わたしたちにはしなければならぬことがあります。救わなければならない大切な人々がいます。病む人、疲れた人、飢えた人、裸の人、傷ついた人、孤独な人、老いた人、さまよう人、皆わたしたちの助けを求めているのです。」²

モンソン大管長は個人的な奉仕の業を通して、管理することと仕えることの違いを示してきました。教会員はプログラムを管理し儀式を執行しますが、個人に対しては愛し、助けて、仕えるのです。人に手を差し伸べることで、モンソン大管長は「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるため……である」(マルコ10:45)と言われた救い主の模範に従っています。





次の4つの例が示すように、「行って同じように」する(ルカ10:37)末日聖徒は、人々や教会のみならず、自分自身にも祝福をもたらすのです。

ホットケーキの生地を携えたサマリヤ人

小さな手術を受けてから快復するまでは予想以上に大変でした。でも、ワードの扶助協会会長として、自分は助けを提供する側であって、人に助けを求めるべきでないと思っていました。手術を受けてから3日後の月曜の朝、7人の子供を起こして学校の準備をさせなければなりません。長女に学校を休んで赤ん坊の面倒を見てもらうべきかどうか迷っていました。

そんなとき、玄関のブザーが鳴りました。扶助協会の第一顧問で親友のビッキー・ウッダード姉妹が手伝いに来てくれたのです。ビッキーはホットケーキを作りに来たのだと言いました。腕

にホットケーキの生地の入ったボウルを抱え、フライパンはどこか尋ねました。子供たちは大喜びでした。

朝食の後、ビッキーは子供たちを学校に送り出し、片付けを終えると、赤ん坊を自宅へ連れて帰り、昼寝の時間まで預かってくれました。後で、彼女自身の幼い子供たちの面倒はだれが見ていたのか尋ねると、ビッキーがわたしを助けられるように彼女の夫が2時間ほど仕事を休んだのだと教えてくれました。

その日のビッキーとご主人の奉仕のおかげで、わたしは体力を取り戻し、順調に快復することができました。

アメリカ合衆国アリゾナ州、ビバリー・アッシュクロフト

これらの最も小さい者に

ある日、いちばん下の息子と二人きりで家にいたときに、わたしは階段で滑って転んでしまいました。腹部の痛

みが何日も引かないので、医者に診てもらうことにしました。

当時わたしは妊娠していたのですが、検査の結果、胎盤剥離になってしまったことが分かりました。そのため、赤ちゃんの命を守るために絶対安静が必要になりました。

小さな子供が3人いましたし、手伝いの人を雇う経済的な余裕もなかったので、心配でした。すると、わたしの状況を知った支部の姉妹たちが自発的に助けの手を差し伸べてくれました。3つのグループを作り、それぞれ午前、午後、夜に分担して助けに来てくれたのです。

姉妹たちはやって来て、洗濯、アイロンがけ、料理、掃除のほかに、子供たちの宿題も手伝ってくれました。わたしの安静が始まってからバプテスマを受けたルート姉妹は、我が家ですっかりおなじみの顔になりました。看護師



をしているルート姉妹は夜に手伝いに来て、必要な注射を打ってくれました。

わたしから何も頼む必要はありませんでした。姉妹たちがわたしの必要を予測してすべて対処してくれたからです。手が余っているときは、一人の姉妹がわたしの話し相手になってくれました。姉妹たちはこんな助けを3か月も続けてくれたのです。

姉妹たちはわたしに力と愛をくれ、献身的に尽くしてくれました。時間と才能を惜しみなくさげてくださいました。そのために犠牲を払ってくれました。何の見返りも求めずしてくれたのです。皆、「あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40)と教えられた主の模範に従って、愛し、仕えてくれたのです。

ブラジル、バラナ、エニルゼ・ド・ロシオ・フェレイラ・ダ・シルバ

服だけ持って来て

夫のブランドンはフロリダ州のオーランドに出張していたある夜、高熱と息苦しきで目を覚めました。彼が救急車を呼んで病院に行ったところ、重い肺炎にかかっていることが分かりました。

わたしたちにはまだよちよち歩きの子供たちがいたために、すぐにペンシルベニアの自宅からフロリダに駆けつけることができませんでした。毎日ブランドンに電話をかけ、快復して帰宅できることを願いました。

ところが、ブランドンの容態は悪化しました。病院の看護師から電話がきて、できるだけ早く病院に来るように強く勧められたとき、わたしはだれに子供たちの面倒を見てもらえるか考え始めました。

母が仕事を休んでできるだけ早く来てくれることになりましたが、母が到着する前にわたしが乗らなければならない飛行機が発券するのです。母が到着するまで息子たちを見てくれる人を探して、2、3人の友人に電話してみました。扶助協会の友人のジャッキー・オールズ姉妹が喜んで預かると言ってくれました。

「着替えの服とおむつだけ持って来てちょうだい」と彼女は言いました。「必要なだけ何日でも預かるから。」

ジャッキー自身も子供を3人抱えて忙しい毎日を送っていたので断ろうとしましたが、彼女は聞き入れませんでした。それから少しして子供たちを連れて行くと、次のように慰めてくれました。「子供たちのことは心配しないで。ブランドンが快復して帰って来られるようにすることだけ考えてちょうだい。」

小さい子の世話は慣れているから大丈夫よ。」

そのとき、わたしは息子たちが無事に楽しく、よくしてもらって過ごせるだろうと確信しました。そしてまさにそのとおりになったのです。おかげで、わたしは夫のそばにすることができました。わたしが病院に着いたころには夫は重体に陥っていましたが、数日すると家に帰れるまで快復しました。

困っていたわたしたちに、頼もうと思っていたことをはるかに上回る助けの手を差し伸べてくれた良い友人に感謝します。

アメリカ合衆国ペンシルベニア州、ケリー・パークス

病床の奉仕

活動的な35歳のアンダーソン兄弟はワードの若い男性会長で、だれもが尊敬するような青少年指導者でした。帰還宣教師、5児の父親、会社経営者で、はつらつとした兄弟でした。ところが、そんな彼が白血病に侵されてしまったのです。祭司定員会会長会第一補佐のライアン・ヒルはビショップからそのことを聞き、直ちに行動を開始しました。祭司定員会の活発な祭司やあまり活発でない祭司一人一人に電話をかけたのです。

「病院にアンダーソン兄弟の見舞いに行こう。皆で行きたいんだ。行けるかい?」電話の度にそう繰り返しました。

「行けるかどうか分からないよ」とある祭司は答えました。「アルバイトがあるかもしれないから。」

「だったら、バイトが終わるまで待つよ」とライアンは言いました。「皆で行かなきゃだめなんだよ。」

「分かったよ。だれかに代わってもらえるか頼んでみるよ。」

11人の祭司全員で病院へ行きました。あまり教会に来ない者も、日曜の集会を欠かしたことのない者も皆行きました。皆一緒に笑い、泣き、祈って、今後の計画を立てました。それからの数か月、彼らは予定を組んで、血行の悪くなったアンダーソン兄弟の足をさすりに行き、自分たちの献血だけで輸血の必要が賄えるよう、1回2時間かけて順番に血小板を提供しました。学校の年度末ダンスパーティーの夜は皆

で、デートの相手(うち二人は教会員ではありませんでした)を連れて32キロの道のりを運転して病院を訪れ、病床の指導者と高校生活の大切な経験を分かち合ったのです。

死期が迫ると、アンダーソン兄弟は彼らに伝道に出て、神殿で結婚し、互いに連絡を取り合うように言いました。それから12年以上たった今も、伝道を終え、神殿で結婚して、家庭を築いている彼らは、愛する指導者とともに過ごした、そして人生の転機となった、あの霊的な奉仕の経験を懐かしく思い出します。

アメリカ合衆国テキサス州、ノーマン・ヒル

注

1. クエンティン・L・クック「預言者たちの言葉を心に留める」『リアホナ』2008年5月号、49-50参照
2. トーマス・S・モンソン「エリコへの道」『聖徒の道』1989年9月号、6



わたしが？

イスラエルの 羊飼いは？

七十人

ダニエル・L・ジョンソン長老

末日聖徒イエス・キリスト教会がほかの教会と大きく異なる点の一つに、非聖職者による管理が挙げられます。教会のワード、支部、ステーク、地方部には報酬を受けて働く聖職者は一人もいません。代わりに、教会員が互いに仕え合うのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は皆、イスラエルの羊飼いとなる召しを受けています。会員である羊飼いたちはビショップリックや支部会長会として、神権会や補助組織の指導者として、幹部書記や書記として、ホームティーチャーや訪問教師を含むあらゆる種類の教師として、またその他の数え切れない役割で奉仕しています。

会員である羊飼いには共通点が幾つかあります。それぞれ養い、励まし、仕えるべき羊を持っています。また、任命を受けた僕を通して主から召され、羊飼いとして管理の職について主に責任を負っています。

迷い出た羊を探す

ジョセフ・セルジ・メリラス兄弟は1980年、19歳のとき母国ハイチを出て、職を求めてドミニカ共和国に移住しました。1年半後ハイチに帰り、恋に落ちて、新婦マリー・レイモンド・エステリン姉妹と一緒にドミニカ共和国に戻りました。

異国で結婚生活を始めた二人でしたが、ジョセフは霊的な渴望をおぼえるようになりました。その渴望を満たそうと、

マリーと幾つかの教会を訪ねてみましたが、スペイン語圏の国に住みながらハイチのクレオール語を話す二人には言葉を理解することも、理解してもらうことも困難でした。やがて、二人の末日聖徒の宣教師と出会い、教会に招待されました。ジョセフとマリーが数回集会に出席した後、宣教師は忍耐強くスペイン語でレッスンを教え、二人は1997年9月にバプテスマを受けたのです。

ジョセフはまず日曜学校会長会に、その後支部会長会の顧問として、さらに支部会長として召されました。しかし、おもに意思の疎通がうまくいかなかったために、何度も誤解があったり、心が傷つくことが続いて、ジョセフとマリーと5人の子供は教会から遠ざかるようになり、地元の教会員にとってほとんど忘れられた存在となっていました。

その後の7年間に二人はさらに4人の子供に恵まれ、ハイチからおいとめいを一人ずつ家族に受け入れました。熱心に努力して、ジョセフ

はスペイン語と英語を流暢に話せるようになり、地元の会社で英語とハイチのクレオール語を教え始めていました。

2007年8月、二人の神権指導者が主の迷い出た羊を探してメリラス家にやって来ました。そして、7年の間、教会の集会に出ていないにもかかわらず、ジョセフとマリーがまだ福音に証を持っていることが分かりました。指導者たちは教会に戻って来るように招き、メリラス家族は翌日、13人そろって教会に出席しました。それ以来、ずっと出席し続けています。

現在、ジョセフはドミニカ共和国の南西部に位置するバラオナで支部伝道主任をしています。長男と次男も支部で指導的な責任を果たし、長老に召されたばかりのおいは若い男性の会長です。最近この家族は神殿へ赴き、永遠の家族の結び固めを受けました。

考えてみてください。二人の羊飼いがこの家族を探し、養い、主の囲いの中に戻したおかげで、13人の迷い出た羊が見つかったのです。二人は導かれてこの家族を見つけました。自分の責任である迷い出た羊を探すとき、わたしたちも同じように導きを受けることができるのです。

わたしはこれまで何千回も、迷い出た羊を群れに連れ戻すために教会員を訪問したり、訪問する人に同行したりしてきました。そのような訪問には御霊が豊かに注がれることを証します。多くの羊が教会に戻るのを見てきましたし、戻って来たときの喜びを感じてきました。そこには感動がありました。祝福が授けられて、彼らが泣きながら証を述べるのを目にしました。祈りがささげられ、その祈りの答えを受けて、愛を表す言葉が語られるのを見てきました。人の人生が変わるのを目の当たりにしてきたのです。

群れを養う

紀元前592年から570年の間のあるとき、主は怠慢な羊飼いについて預言者エゼキエルに語られました。羊飼いが務めを怠ったために、



わたしは
これまで何千回も、
迷える羊を
群れに連れ戻すために
教会員を訪問したり、
訪問する人に
同行したりしてきました。
そんな訪問には
御霊が豊かに
注がれることを証します。



「ベツレヘムへの道」の一部 ジョセフ・ブリッキー画。右「ガイジとアベル」の一部、ロバート・T・バレット画



あなたがたは弱った者を強くせず、病んでいる者をいやさず、傷ついた者をつつまず、迷い出た者を引き返らせず、うせた者を尋ねず、……

わが羊は地の全面に散らされているが、これを捜す者もなく、尋ねる者もない。

主なる神はこう言われる、……わたしの羊を彼らの手に求め[る]。』(エゼキエル34:2, 4, 6, 10)

多くの面で、わたしたちは教会堂を中心に活動する教会になっています。教会に来る人たちには霊的にも情緒的にも養うように大いに努力を払っていますが、教会堂に足を向けなくなった人たちにはどうでしょうか。

教会の召しを受けたら、仕え、奉仕するよう神から任された羊を持つことになります。例えば、教師になった場合、わたしはクラスに出席する人だけでなく、出席していない人の羊飼いであります。わたしには羊を見つけ出して親しくなり、必要を満たす助けをして、群れに連れ戻す責任があるのです。

群れに連れ戻す

会員である羊飼いとて、わたしたちはルカ第15章の教えを心に留め、深く考えるべきです。主はこの章で、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子^{ほうとう}のたとえを教えられました。この3つはすべて「なくしたもの」が再び見つかったことにかかわるたとえです。迷い出た羊のたとえで主は次のようにお尋ねになっています。

「あなたがたのうち、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

群れが散り散りになっていたからです。そのような羊飼いについて主は次のように語っておられます。

「人の子よ、イスラエルの牧者たちに向かって預言せよ。預言して彼ら牧者に言え、主なる神はこう言われる、……牧者は群れを養うべき者ではないか。……

家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。

よく聞きなさい。それと同じように、^{つみびと}罪人がひとりでも悔い改めるなら、^{くいあらた}悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。』（ルカ 15：4-7）

このたとえでは、迷い出た羊は1匹だけでしたが、わたしたちのワードや支部ではそういうことはめったにありません。しかし、群れからはぐれた羊の数に関係なく、たとえば同じように当てはまります。

たとえには羊を見つけるまでに要した時間は書かれていません。わたしたちが羊飼いとして努力するとき、たった1度の訪問で教会に戻る羊もいれば、何年も絶えず優しく励まし続けることが必要な場合もあります。

兄弟姉妹を連れ戻す過程で忘れてならないのは、わたしたちが「連れ戻さん」としているのが「羊飼いの愛」¹ しておられる羊であるということです。主は彼ら一人一人を御存じで、一人一人を完全な愛をもって愛しておられます。主のものである彼らを連れ戻すために、わたしたちが御霊の導きを求めて、その声に耳を傾けるならば、主はわたしたちを導き、何を言うべきか靈感によって教えてくださいます。わたしたちが誠心誠意、へりくだって手を差し伸べるとき、多くの人は聖霊の力によって前向きにこたえてくれます。

わたしたちが皆、羊飼いとしての責任を心に留め、主がそれぞれに割り当てられた羊に関する管理の責任について主により報告ができますように。■

注

1. 「羊を守る羊飼いの愛」『賛美歌』136番参照



羊を見守る

「わたしたちはイスラエルを見守る羊飼いです。飢えた羊が目を立て、命のパンを待っているのです。……助けを必要としている人がいれば、どのようなことであれ、手を差し伸べなければなりません。」

トーマス・S・モンソン大管長
「神権者としての信頼にこたえる」
『リアホナ』2006年11月号, 57-58

家族の中でわたしはいちばん若く、年も離れています。きょうだいの活動や会話の輪から外れているようにいつも感じます。きょうだいとの関係を改善するために何ができるでしょうか。

この問題は、あなたがきょうだいともっと親しくなりたいと思っていることを知ってもらう良い機会になるかもしれません。あなたが疎外感を抱いていることを、きょうだいは知らないかもしれません。また、このことについて両親と話してみるのもよいかもしれません。知恵を貸してくれるでしょう。

一緒にできる活動を提案したり、一緒に話せる話題を考えたりしてみましょう。一緒に過ごす計画を立てるときは、彼らの予定や興味を考慮に入れましょう。話に耳を傾け、取り組んでいることに興味を示せば、関係を改善できるだけでなく、あなた自身が学ぶ機会にもなります。あなた自身が数年後に経験するかもしれないことを、彼らが今経験しているからです。

天の御父の計画の中で家族がどれほど大切な役割を果たしているか思い出してください。御父の助けを祈り求めるなら、きょうだいとずっと親密になるアイデアを靈感によって与えてくださいます。勇気をもって御霊のささやきに従ってください。

きょうだいと話しましょう



わたしも末っ子で年が離れていますが、分かったことは、わたしがきょうだいのことを知りたいと思っているのと同じくらい、彼らもわたしのことを知りたがっているということです。あなたのきょうだいも、あなたの方から電話しておしゃべりをしたり、いつか昼食を食べに出かけようと誘ったりしたら、喜ぶのではないのでしょうか。生活で起きている出来事について話してください。考えや思いを打ち明けるほどあなたが心を許していることをきっと喜んでくれますよ。霊的なことについても話しましょう。そうすれば彼らとずっと親しくなれるだけでなく、天の御父にももっと近づくことができます。

カナダ、アルバータ州、ケルシー・H、16歳

模範になる



わたしも同じ困難を経験したことがあります。いちばんよいのは、兄や姉に模範を示すことだと思います。そうすれば、皆の中に愛と平安が宿ることができます。どれだけ愛しているか伝えるべきです。遅かれ早かれ、家族として一致するようにすべきです。遅かれ早かれ、彼らもわたしたちの愛に気づいてくれるはずです。こういうことは少しずつ改善していくものです。

ハンガリー、ジェール・モソン・ショブロン、アダム・B、16歳

一緒に何かをする

学校やその他の活動で兄や姉と一緒に過ごすのが難しいことが時々あります。でも、できるときは話すようにしましょう。その日の出来事を話して、彼らがどうしているか尋ねてみましょう。何か困ったことがあるときに相談したら、あなたが彼らの意見を尊重しているのが分かるはず。彼らに接してもらいたいと思うとおりに彼らに接するようにしましょう。ゲームをしたり、一緒に何かをしたりするのがとても役に立つと思います。それに、愛していることを伝えるべきです。でも、何よりも大切なのは祈ることです。天の御父はいつでも助けてくださるからです。

アメリカ合衆国、アイダホ州、キャサリン・M、14歳

思いやりをもって接する



わたしも末っ子で、きょうだいの活動や会話から仲間外れにされているように感じて悲しくなることがあります。でも、イエス・キリストのことを考えるとき、価値観を家族と共有することによって互いに強め合い、励まし合うことができます。思いやりと敬意をもって皆に接しましょう。関心を示し、大切に思っていることを伝えましょう。

フィリピン、レイテ、ジョセフ・M、16歳

一緒に過ごす時間を楽しむ



両親と同じように姉たちが自分のことで忙しいときは、忘れ去られたように感じることもあります。時間がたつにつれて、家族の皆が愛してくれていることと、一緒にいるのが嫌なのではなく、すべてのことには時があることが分かるようになりました。きょうだいと一緒にい

られる一瞬一瞬を楽しみ、笑い、優しく、仲良くし、何よりも愛を行動で示すことが大切だと思います。あなたがお兄さんやお姉さんと親しくなれるように、祈りを通して、御父に助けをくださるようお願いすることが大切です。御父は祈りを聞いて、きっと助けてくださいます。

チリ、サンティアゴ、ロベルト・S、18歳

話す時間を作る



わたしは7人きょうだいの末っ子です。小さいときは仲間外れにされているように感じましたが、思っている以上に愛されていることも知っていました。今は共有できることがないかもしれませんが、わたしがいちばん楽しかったのは一緒におしゃべりしたときです。とても信頼してくれていることが分かったからです。それは今も同じです。おしゃべりするために、兄や姉に割り当てられた家事を手伝ったり、思いやりを示したり、腹を立てないようにしたり、手伝ってもらえるように共同で何かをしたりしてみたいと思います。わたしはそうして仲間意識と愛を感じる事ができました。

メキシコ、メキシコシティ、マリア・H、19歳



もっと愛を示す

「きょうだいといつも仲良くできない人もいますでしょう。つまらないことで言い争ったり、口論したりしても、彼らがあなたにとってとても大切な存在だということを忘れないでください。いつか親友になれるでしょう。」

家族に愛を示さなければならないのは、互いに愛し合うように戒めで教えられているからだけではなく、それが幸せになる方法だからです。だれかと問題があるとき、最善の解決法は相手を変えようとするのではなく、その人にもっと愛を示すよう努力することなのです。」

七十人 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老 “Friend to Friend,” Friend, 1996年6月号, 6

質問

「『いつでも……神の証人になる』(モーサヤ18:9)とはどういう意味でしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2009年11月15日必着で下記までお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 11/09
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

送ってくださった意見は誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署名

親の署名(18歳未満の場合)

醜いアヒルの子が、 それとも高貴なハクチョウか—— それは、あなた次第!



エロル・S・フィッペン長老

2004年から2009年にかけて地域七十人として奉仕

幼いころ、母が「醜いアヒルの子」という、ハンス・クリスチャン・アンデルセンの書いた物語を読んできたのを覚えています。内気だったわたしは、うまく周囲になじめないと感じていたのでしょうか。その思い出や、物語から学んだ教訓が今もずっと心に残っています。

わたしが記憶しているあらすじを紹介しましょう。1羽の母アヒルが、卵からひな鳥がかえるのを辛抱強く待っています。間もなく、柔らかな黄色い羽毛に包まれたひなが次々と姿を現し、母アヒルは喜びます。ところが、少し大きめの卵が一つだけ、なかなか孵化しません。母アヒルとひなたちは、卵をじっと見守りながら待ちました。ついに卵が割れたとき、黄色いひなたちは、かえったばかりのきょうだい自分たちと違っての気づいて取り囲むと、父さんアヒルと母さんアヒルに、こう言いました。「この子はほくたちと違うよ。醜いもん。」ひなたちは、そのひなを巣に残したまま泳ぎに行ってしまいました。醜いアヒルの子は巣からさまよい出て身を隠そうとします。だれに会ってもひどいことを言われ、がっかり

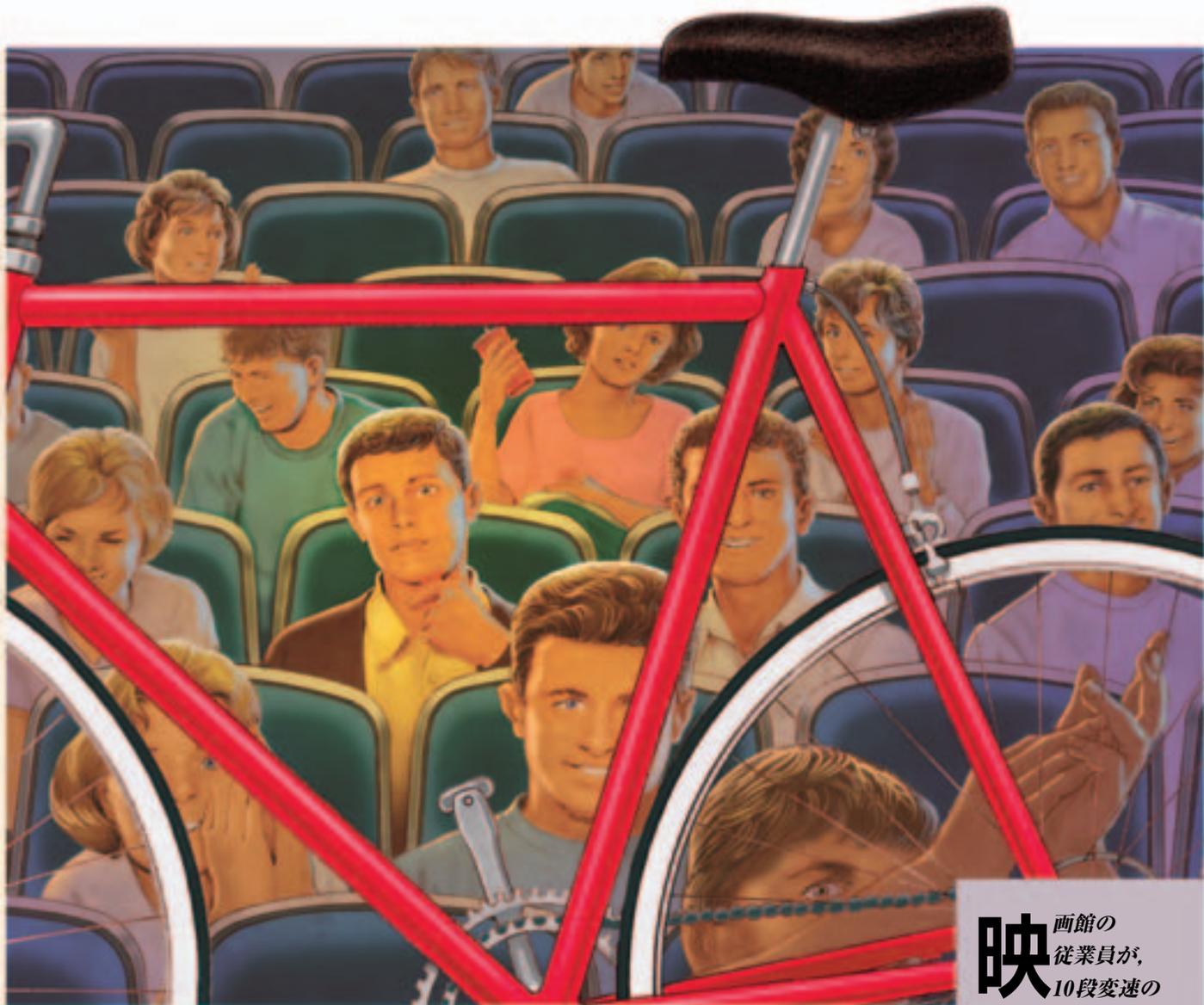
させられるからです。そして、度々こう考えるようになります。「みんながほくを嫌うのは、ほくが醜いからなんだ。」

その後、醜いアヒルの子に奇跡が起こります。姿や行動が自分とよく似た群れを見かけ、友達になったのです。新しい仲間たちは、アヒルの

自分はだめだと
思っていないですか?

よく考えてみてください。——あなたは神の子供です。神の助けがあれば、あなたの内に秘められたすばらしい潜在能力を発揮することができます(ローマ8:16-17参照)。

皆さんはえりすぐりの神の息子であり、娘です。皆さんの内に秘められた神聖な方にふさわしく生きる道を選んでください。



映画館の 従業員が、 10段変速の

自転車を1台
押して来ました。
見事な赤い自転車です。
そしてそれを
だれかにプレゼントする
というのです。
わたしはその自転車が
欲しくて、欲しくて
たまりませんでした。

子を自分たちの母鳥のところに連れて行き、こう尋ねます。「お母さん、お母さん、ぼくたちの弟を見つけたよ。ずっと一緒にいていいよね?」優雅で美しいハクチョウの母鳥は、醜いアヒルの子を真っ白な羽で包み込み、優しい声でこう言います。「あなたはアヒルなんかじゃないわ。小さなハクチョウなのよ。いつの日か、池の王様になるのよ。」

子供ながらに、わたしはこの話を聞くのが大好きでした。難しい10代の時期、この話から学んだ教訓に助けられるとは思ってもみませんでした。わたしは8歳のときにバプテスマを受けて教会員になりましたが、家族は次第に教会から遠ざかっていきました。

わたしが育ったアイダホ州の小さな町には映画館が1軒あって、毎週土曜日の昼に呼び物の映画を上映していました。わたしはいつも、数

人の友人と通ったものです。最初に、短いスポーツ映画と、最近の出来事を題材にした映画が上映されました。そしていちばんの呼び物は、たいてい、アクション満載のカウボーイ映画でした。

ある土曜日のことでした。次の映画までの休憩時間に、映画館の従業員が10段変速の自転車を1台、押して来ました。見事な赤い自転車です。観客の中で当たりの半券を持っている人にその自転車をプレゼントするというのです。わたしはその自転車が欲しくて、欲しくてたまりませんでした。

担当者が入場券の入った箱に手を入れて、中から1枚取り出しました。番号が読み上げられたとき、わたしは自分が当たりの半券を持っていることに気づきました。それなのに、身動きすることも口を開くこともできません。あまり



自分が
当たりの半券を
持っていること

に気づきました。

それなのに、
身動きすることも口を
開くこともできません。
あまりに内気で、
恥ずかしくて
たまらなかったのです。

に内気で、恥ずかしがり屋だったわたしは、立ち上がって当たり券を持っていることを皆に知らせる勇気がなかったのです。さらに2度、当たり番号が呼ばれましたが、わたしはその度に自分の券をだれにも見られないように下ろしました。とうとう別の番号が読み上げられ、それは偶然にも一緒に映画を見に来ていた友人の番号でした。その友人は飛び上がり、叫びながら舞台に走り寄り、自転車は自分のものだと言いました。あの自転車は、わたしのものになるはずだったのに！

その日、わたしは独りで映画館から家まで歩きながら、醜いアヒルの子の物語について考えました。ちょうどあの小さなハクチョウと同じような気持ちでした。皆から嫌われ、身を隠そうと森の中をさまよっている気分でした。自分が何者であるのか、また何者になれるのかを理解していませんでした。でも、家に着くころに

は、何かを変えるべきだという気持ちに変わっていました。「今こそ、成長するときだ。こんな失敗を二度と繰り返さないぞ。」そう考えていたことを、今でも覚えています。

わたしは自分を愛し、気にかけてくれる人が周りに何人もいることに気づき始めました。ワードのビショップリックは、わたしに関心を示してくれましたし、同じ通りに住むステーキ会長もそうでした。彼らはわたしに福音を教えてくださいました。そして、救い主の^{あがな}実在やその^{あかし}貴い^{あがな}贖いについて、また贖いがわたしに及ぼす効力について述べてくれました。また、ジョセフ・スミスの物語や聖なる森でジョセフが見た示現の話を何度も読んでくれました。そのおかげで、わたしはジョセフ・スミスに関する歴史を毎週読むというすばらしい習慣を身に付けることができました。そのようにすれば、その週にどのような事柄に直面しても克服する強さが

得られることを知っています。

わたしの生涯において、だれかを切実に必要としていたあ
のとき、天の御父はわたしを祝福してくださいました。御父
はわたしが何者であるかを御存じであり、そのことにわたし
自身が気づけるように、御自分の僕を遣わしてくださいました。
御父の僕たちは、あふれる愛でわたしを包み、助けてくれま
した。わたしは決して醜いアヒルの子ではないこと、そして
神の戒めを守り、ふさわしくあるなら、「池の王様」になれる
ことを、その行いによって伝えてくれたのです。贖いについて
理解し、贖いの祝福にあずかることによって、わたしは強さと
自信を増し加え始めました。

16歳になったとき、このすばらしい僕たちは、祝福師の祝
福を受けるよう勧めてくれました。わたしは推薦状を受け取
ると、古い自転車に乗って数マイル離れた祝福師の家に向か
いました。祝福師はもう一度、祝福師の祝福がどのようなも
ので、それがわたしの人生をどのように祝福するかについて
説明した後、両手をわたしの頭に置きました。その経験の後、
わたしの生活はすっかり変わりました。

わたしはスコットランドへの伝道の召しを受け、すばらしい
経験をしました。帰還から数週間後、教会の集会で、将来の
妻となる人に出会いました。デートをし、結婚を申し込み、そ
してわたしたちは、ソルトレーク神殿で結婚しました。

わたしの祝福師の祝福の中に、この世で一人の天使と生
活を共にすることが許されるという一文があります。祝福師
からこの祝福を受けたとき、その文の意味どころか、一人の
天使が何を表すのかさえ、わたしには分かりませんでした。
妻とわたしが結び固められた日、神殿を後にして、ようやくそ
の意味が理解できました。妻はこれまで常にわたしの人生を
照らす光の天使でした。妻のおかげで、光あふれる環境の
中で生活することを許されてきたのです。妻は8人の子供、
25人の孫、2人のひ孫一人一人に喜びと幸いを与えてきました。
わたしの子供たちは皆、妻のことを「祝福された人」と呼んで
います。福音から得られる数々の祝福、ならびに神聖な神殿
の聖約と儀式を通して得られる永遠の祝福に対し、わたしは
神に感謝をささげます。

サタンはわたしたちに、自分は醜いアヒルの子で、天の御父
とその尊い御子になる可能性などないと信じさせようとす
ます。神はわたしたち一人一人をそれぞれ特別な方法で愛し
ておられることを証します。十二使徒定員会のニール・A・
マックスウェル長老(1926-2004年)は度々次のように述べま
した。「わたしたち一人一人が神御自身のようにするための
感化力は、日常のささいな事柄の中に見いだせます。」¹ わた



あがな
贖いについて
理解し、
贖いの祝福に
あずかることによって、
わたしは
強さと自信を
増し加え始めました。

したちは神の子供です。福音の
戒めに従うことにより、現在の境
遇を乗り越えて、「池の王や女王」
になれるのです。わたしは次第に
それを理解するようになりました。

そのほかにも、わたしが知って
いる事柄があります。それは、皆
さんが何者であるか、そしてどこ
から来たのかということについてです。幾つかの啓示から、
わたしたちが前世において忠実であったことが分かります
(黙示12:7-11;教義と聖約138:56;アブラハム3:22-
23参照)。わたしたちの証がこの偉大な真理にしっかりと結
び付いているなら、一日一日がわたしたち一人一人にとって
すばらしい祝福になります。

主の側に立ち続けてください。わたしのように内気で人見
知りする少年を、主が気にかけてくださるのなら、主は皆さん
を、現在と将来にわたって気にかけてくださるでしょう。皆さん
はえりすぐりの神の息子であり、娘です。皆さんの内に秘めら
れた神聖な力にふさわしく生きる道を選んでください。■

注

1. ニール・A・マックスウェル, "Becoming a Disciple," *Ensign*, 1996年6月号, 17

祈り によって始める

答えを探しているのですか？
カナダ・オタワ州に住む10代の若者たちは、
祈りは答えを得るためのスタート地点であると
語っています。



上—ブリジット・リーガー, ジェニー・ホルト,
ドーン・リバート, ダイナ・コンウェイ, レベッカ・ワゴナー,
アレクサンダー・リケル・ブルレ,
そして、オンタリオ州オタワステークから参加した
そのほかの若人(左)は、祈りのすぐ先に、
天の御父からの助けが待っていることを知っています。

15歳のジェニーは祈りの答えを受けることについて話すとき、まず自分の誤った行いを認めることから始めます。ほぼ1年間、きちんと祈らずにいたことを非常に残念に思っているのです。学校でも、友達関係でも、また教会においてさえも、様々なことがうまくいっていませんでした。

ジェニーは次のように説明します。ある晩、映画を見たいと思い、本棚のいちばん下の段に置いてあった映画の中から見つけようと腰をかかめると、ふと1枚の写真に目が留まりました。それは、少し前に悲惨な死を遂げたおじの写真でした。突然、あらゆる心配事が心に重くのしかかってきて、ジェニーは泣きたくなくなりました。「その瞬間、とにかく祈るべきだと思ったのです」とジェニーは言います。ジェニーはその場にひざまずき、祈りました。

祈りの答えを受けたときのことを、ジェニーはこう話しています。「祈り始めた途端、疑問に対する答えを受けました。再び、すべて大丈夫だという思いになりました。何もかもうまくいくし、おじについても何も心配することはないと分かったのです。また自分は学校や友達のこと大好きであることに気づきました。そして祈り終わるとすぐに、教会に行くべきだと分かりました。教会はわたしのためにあるからです。その思いはわたしの心に強く響き、穏やかで温かな気持ちでいっぱいになりました。天の御父はわたしを愛しておられ、様々な事柄を通してわたしを助けてくださることを知っています。」

ジェニーはずっと前からこのような祈りをささげたいと思いながらも、なぜかできずにいました。今ではそのときのことを考えるだけで、同じように慰めを感じ、主から祈りの答えを受けたという確信を新たにします。

ジェニー・ホルトはカナダの美しい首都オタワの出身です。オタワは、木々が豊かに茂るオタワ川の沿岸に築かれた町です。オンタリオ州オタワステークのジェニーと友人たちは、祈りが生活にどのような影響を及ぼすかについて、教会機関誌のインタビューに答えてくれました。

答えはどこから来るのでしょうか？

オタワの10代の若者たちが話し合った中で最も興味深い事柄の一つは、祈りがどのようにこたえられたかということでした。最初に、スーザン・ブルックが「答えが欲しければ、耳を傾けなければなりません」と述べました。

スーザンは、聖文を読むことによって祈りの答えが得られることがあると言い、一つの良い例を紹介してくれました。「ある日、わたしは疲れ切っていて、だれに対しても不機嫌でした。話をしたくなかったのです。どこに書いてあったか思い出せませんが、聖文を読んでいると、こう書いてありました。『謙遜けんそんでありなさい。』その聖句に胸を打たれました。それがわたしへの答えだったので(教義と聖約112:10参照)。」

アリアナ・キースは、教会で人々の話に注意深く耳を傾けています。「わたしたちの祈りの多くは、教会で人々が語る話を通して答えられるように思います」とアリアナは言います。「わたしが祝福師の祝福を受けたいと願っていたときのことです。祝福を受ける予定だった前の週に、わたしの所属するステークの祝福師がワードを訪問して話をしてくれました。祝福師の祝福についてずっと熱心に祈っていたので、祝福師の話を実際に聞くのはすばらしい経験でした。」

マッケンジー・ロフタスは、家族を通して祈りの答えを得ることがよくあると述べました。家族で決めたことについて祈ったとき、「すぐに御霊を



上、上から——
**フレッド・キングと
 ロナン・フィラモントは、
 聖餐がいさんの祈りは神聖であって、
 敬虔けいけんな態度で
 ささげるべきだと
 口をそろえて言います。
 ケフィン・デ・ソーザは、
 家族の祈りに
 感謝しています。**

オタワの若人は、
 困難な時期に慰めを願い、
 学校の勉強や友人について
 助けを請い、
 そして自分たちの望む祝福を
 求めて祈ります。
 天の御父が
 祈りにこたえてくださることを
 知っているからです。
 「時々、自分が期待する答えを
 得られないことがあります。
 でも、自分に必要な答えが
 与えられるのです。」
 ドーソン・リバートは、
 そう語りました。



上—
 マット・ラーソンは、
 祈る前に、
 部屋の壁にはってある
 聖句を読みます。
 またニック・モーレンベックは、
 祈るには努力が必要だと
 語ります。

感じ、決めたことは正しかったと分かりました」と語りました。

時には、求めている答えそのものが、歩み寄って来ることもあります。トーマス・フランシスが家族でオタワに引っ越したとき、新しい学校で新たに友達を作る必要がありました。トーマスは、良い友人を見つけられるように祈りました。彼は、こう話してくれました。「ある日、クラスメートの一人が近寄ってきて声をかけてくれたのです。『一緒に来て、ほくの友達に会ってみないかい。』それ以来、ほくたちはずっと友達です。そのおかげで随分助けられました。」

ドーソン・リバートは、祈りの答えについて非常に大切なことを語っています。「時々、自分が期待する答えを得られないことがあります。でも、自分に必要な答えが与えられるのです。」また、すぐに答えだと気づかないこともあるが、後で振り返ったときに分かることも述べました。

語りかける相手

若人の数人が、一緒に祈る家族がいることはどんなにすばらしいかについて語ってくれました。ケフィン・デ・ソーザは、家族が毎晩一緒に祈ると分かっていることが特にうれしいと言います。「わたしたちは交代で祈ることにしていますが、とても御霊を感じます。わたしが家を離れているときには、家族がわたしの無事を祈ってくれていることを知っています。」

ベネディクテ・ベリザイレは、毎朝、両親とともに

に祈るのが大好きです。「両親の部屋に行って、一緒に祈ります」とベネディクテは言います。「聖霊がわたしとともにいてくださるという証あかしがあります。聖霊の助けが必要なときには、いつでも天のお父様に願い求めます。」

ベネディクテの友人のルース・デカディーは、こう語りました。「祈るとき、天のお父様が耳を傾けてくださっていることを知っていなければなりません。これはとても大切なことです。あなたのために、そこにいてくださるのですから。」

ケイティ・キャメロンは、祈るときに心に感じる気持ちが大好きです。「主にお話するとき、主がほんとうにわたしと話したいと思っておられるのを感じます。どんなことでも主にお話することができることを知っています。」

人のためにささげる祈り

若い男性のうち、特に祭司の年代のロナン・フィラモント、フレッド・キング、ドーソン・リバート、ダビン・リバートせいじんは、ワードや支部の会員のために聖餐の祈りをささげるといって、重要で神聖な務めについて語ってくれました。

ドーソンは、こう語りました。「聖餐の祈りをささげるとき、聖餐の意味についてさらに明確に考えます。この神権の権能を授かっている以上、それを誤って使うことはできないと感じます。」

フレッドは、初めて祭司に聖任され、聖餐の祈りをささげたときのことを覚えています。「最初はとても大変で、失敗ばかりしていました。」

何度も始めから言い直さなければならぬこともありました。でもそのとき、御霊がささやいてくださったのです。何度言い直そうと問題ではない、だんだんうまくできるようになると。とてもよい気持ちになりました。」

祈るために必要な準備

祈りの準備をするうえで大切な事柄について話してくれた若人もいます。マット・ラーソンは、祈りに関する聖句を書いた紙を寝室の壁にはっています。(教義と聖約 78:19)「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも百倍、いやそれ以上、加えられるであろう。」この聖句を読む度に、主が与えてくださっているものに感謝すべきであるということ思い出します。マットは、祈りの中で感謝の言葉を述べる必要があることを知っているのです。

ニック・モーレンバックは、「深く考えず、また誠心誠意祈らずに、単に願い求めるだけでは、祈りの効力は発揮されません」と語りました。

驚くべき祈りの力

シエラ・リバートには、祈りに関するすばらしい経験談があります。シエラが2歳のとき、馬に手を踏まれて、親指を切断し、数本の指が付け根から縦に裂けてしまいました。成功の見込みがきわめて低い手術を引き受けてくれる外科医を見つけるために、両親は娘を連れて病院から病院へと駆け回りました。シエラはこう語りました。「ある医師は、わたしを担当した外科医が手術の成功を祈らなかったことを両親に告げました。母は、『外科医が自分で祈らなくても、手術の成功を祈ってくれる人は大勢います』と答えました。母はすでに神殿に電話して、祈りのリストにわたしの名を加えてくれるよう頼んでいたのです。」

現在13歳になったシエラは、支障なく手を使うことができます。親指も普通に動かします。シエラは自分の親指を高く上げて、同じワードの若い女性たちに見せました。だれもシエラの手を見ても、ほとんど目立たない傷跡が親指の付け根周辺にうっすら残っているだけです。治療の結果は、ほんとうに驚くべきものでした。

「祈りによってどんなことが起こり得るかを知ると、幸せな気持ちになります。」シエラはそう語りました。

カレ・ロフタスが「祈りは、わたしたちが身に付けるべきすばらしい習慣です」と言ったとき、全員が同じ思いを抱いていることがその表情から見て取れました。■

祈りに関する 救い主の教え

「あなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならぬ。

与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。」
(3ニーファイ 18:19-20)」



上、左から——ルース・デカディー、カーチャ・ガラント、ベネディクテ・ベリザイレは、聖霊を送ってくださるよう天の御父に願うのはすばらしいことだという意見で一致しています。

下——ケイティ・キャメロン、キャロリン・アルバース、シエラ・リバートは、祈るときに感じる気持ちが大好きです。



頑丈な根をつかむ

□ シアの学校に通っていたころ、恐ろしい話を讀んだことがあります。それは、森でクマに遭った二人の少年の話でした。それから何年も過ぎて、わたしは教師になりました。あるとき友人たちからキノコ狩りに誘われたので、相変わらず森は恐ろしかったのですが、一緒に行くことにしました。

森に入るとき、万が一クマに出くわしても身を守れるように、棒切れを握り締めていました。間もなく友人たちは、お目当てのブラウンマッシュルームを見つけました。一方、かさの部分が見つかった。一方、かさの部分が真っ赤なマッシュルームを探していたわたしは、いつしか友人たちとは違う方向に進んで行き、気づいたときには独りになっていました。

友人たちを探しているうちに、わたしは足を滑らせて転んでしまいました。マッシュルームはかごと空中に放り出されましたが、棒切れの方はしっかり握ったままでした。起き上がろうとしたとき、地面がべとべとした、ぬかるみであるのに気づきました。沼地に迷い込んだと知って、ぞっとしました。履いていたゴム長靴はたちまち水浸しになり、わたしは沈み始めました。何とか両足を動かそうとしましたが、抜け出すどころか、ますます深みへ引き込まれていくばかりです。腰まで泥水に埋まってしまったときには、底知れぬ恐怖に包まれました。

わたしは大声で友人たちを呼びましたが、聞こえてくるのはトンボの羽音とカエルの鳴き声だけです。すすり泣きを始めたわたしは、突然、母のことを思い出しました。母は、困った状況に陥る度に祈っていました。わたしにも祈るように何度も勧めてくれましたが、



腰まで泥水に埋まってしまったときには、底知れぬ恐怖に包まれました。わたしは大声で友人たちを呼びましたが、聞こえてくるのは、トンボの羽音とカエルの鳴き声だけです。

わたしはいつも「神様なんていないわ」と言い返し、祈ろうとはしませんでした。

しかし、今にも泥水の中に沈もうとしているわたしには、神様に祈って助けをを求める以外、なすすべがありませんでした。「神様、もしおられるなら助けてください!」わたしはそう叫びました。

祈りの言葉を叫ぶやいなや、優しい声が聞こえました。「恐れずに信じなさい。頑丈な木の根につかまりなさい。」

辺りを見回すと、後ろ側に大きな木の根があるのが目に入りました。わたしは持っていた棒切れを使ってその根をしっかりと握ることができました。そして、何かから力を与えられて、泥沼

から抜け出すことができたのです。

泥まみれのまま地面にひれ伏し、祈りにこたえてくださった神に感謝しました。今やわたしは、神がおられることを信じていました。神の存在を感じ、その声を聞いたうえに、沼地から抜け出す力を神から与えられたのですから。

専任宣教師から教を受けたのは、それから間もなくでした。預言者ジョセフ・スミスが聖なる森で祈りの答えを受けたことを聞いたとき、わたしは宣教師の言葉を信じました。何といても、神は森の中でわたしの祈りにこたえてくださったのですから。福音という頑丈な根をつかんだわたしは、その

後すぐにバプテスマを受けました。現在は、アルメニアのジュムリ支部で奉仕しています。

天の御父が御自身の子供すべてを愛しておられることを、わたしは知っています。また末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることに、そしてこれまで天の御父から受けた数々の祝福に感謝しています。とりわけ、何年も前に森の中で、神が不信仰なわたしの祈りにこたえてくださったことに心から感謝しています。■

アルメニア、メルシダ・ハコブヤン

神殿を 見に来ました

ある秋の日、ソルトレーク神殿でワーカーとして奉仕していたときのことです。幾人かの友達を連れた一人の青年が、明らかに神殿の礼拝にふさわしくない服装でやって来ました。

その青年は「神殿を見に来ました」と言いました。

わたしは「推薦状をお持ちですか」と尋ねました。

青年は少しの間考えてから、こう言いました。「はい。わたしの母にはミネソタ州に住んでいるモルモン友達がありますが、その人が神殿を見に行くといいと推薦してくれました。」

わたしは、その青年たちを引き止めて話をすべきだと感じました。わたしはそのラルスという名の青年に、神殿に入ることができるだけでなく、天の御父はそれを望んでおられることを説明しました。そのためにはまず準備が必要であると教え、どうすればよいかを説明しました。

当時、わたしは教会に活発に集うようになって間もないころでした。以前、宣教師として働きましたが、その後、娯楽産業に熱中し、麻薬やアルコールに手を染めるようになった末に、教会から離れてしまいました。わたしの職歴や高収入に家族は感心してくれるものと思っておりましたが、母はそのいずれにも関心を示しませんでした。それどころか、母はいつも神殿の祈りの名簿にわたしの名前を書きました。そしてそのことを、わたしは腹立たしく思ったものです。

妻もまた、教会から遠ざかっていました。8歳になる娘のトリが、イエス・キリストについて質問し始めるころには、わたしたち夫婦の霊性はとことんまで落ちていました。わたしは宣教師として働いたことがあるにもかかわらず、救い主について何一つ思い出せなかったのです。

わたしはトリに、こう言いました。

「君にイエス様のことを教えるのにふさわしい人たちがいるよ。その人たちと話してみてもどうかな?」

数日後、二人の姉妹宣教師が我が家のドアをノックしました。トリが二人を家に招き入れ、レッスンが始まりました。別の部屋で聞き耳を立てていると、姉妹宣教師が教義を教える声が聞こえてきました。その教義が真実であることをわたしは覚えていました。

「あなたはバプテスマを受けたいですか?」3度目のレッスンの後、姉妹宣教師の一人がトリに尋ねました。

「はい」とトリは答えました。

「お父さんに、バプテスマを施していただけるかしら?」

それまで20年間、わたしは教会に行っていませんでしたが、自分の生活に変化が起こりつつあるのが分かりました。娘のレッスンが終わりに近づいたころ、わたしも何回か参加し、教会に出席し始めました。妻とともにビショッ



プにも会いました。悔い改めるにつれて、失った年月を埋め合わせるために、できることは何でもすべきだと決心しました。わたしは仕事を変え、教会の召しを尊んで熱心に果たしました。また妻と娘とともに結び固められ、神殿のワーカーになりました。そのような経緯があったからこそ、興味本位で神殿にやって来た青年たちが、神殿にふさわしい者になれると知っていたのです。

翌春、ラルスはわたしに手紙をくれました。神殿推薦状の本来の意味を説明してもらったことへの感謝に続いて、こうつぶられていました。「わたしは確かに神殿推薦状の意味についてさらに学びました。実際、わたしはバプテスマを受け、今年の1月に自分自身の推薦状を手にする事ができたのです。」バプテスマの白い衣服を身にまとったラルスと、ラルスを教えた宣教師の写真を見つめるわたしの目に涙があふれました。

わたしが神殿に戻るまでの道のりは驚嘆すべきものでした。さらに、ラルスがたどった道筋を知ることができたことも、わたしにとってすばらしい祝福でした。だれもが人の人生に良い影響を及ぼすことができるのだと気づかせてくれたからです。■

アメリカ合衆国ユタ州、リース・バンドレー

祖母の バプテスマ

2001年6月30日のことでした。娘の誕生日のお祝いにケーキを作っていると、電話のベルが鳴りました。ブラジルに住む妹が、祖母が亡くなったことを

知らせてくれたのです。

悲しい知らせではありましたが、わたしは悲しみに沈むことはありませんでした。何はともあれ、愛する祖母は102歳近くまで生きたのです。祖母がこの世の年老いた肉体から解放され、霊界に旅立ったことを、わたしは喜びました。

その後、偶然にも祖母がわたしの娘の誕生日に亡くなったことについて考え始め、それには何か意味があるのではないかと思い巡らしました。日がたつにつれ、その意味が分かってきました。1年後に、祖母のためにバプテスマを受けることを容易に思い起こすことができるのです。娘の次の誕生日まで待てばいいと分かり、わたしはこの責任を引き受けました。

1年はあっという間に過ぎました。しかし、わたしは祖母の命日に神殿に行くことはできませんでした。当時住んでいたポルトガルから、スペインのマドリッド神殿まで行く必要があったからです。しかし、祖母ジョセフィーナのためにバプテスマを受けるという責任について考えない日はありませんでした。

2002年の10月になって、ようやく神殿に行くことができました。夫と息子のマシューも一緒でした。息子は伝道に出る準備のため、自分自身のエンダウメントを受ける予定でした。わたしは神殿に向かっているのがうれしくてたまらず、祖母のためにバプテスマを受けるときには、特別な思いを感じるだろうと考えていました。

バプテスマは夫が施してくれましたが、わたしは何も感じませんでした。息子が確認の儀式を執り行ってくれたときにも、やはり特に感じるものはありませんでした。やがて、何も感じないことは気にならなくなり、ただ、祖母のために儀式を執り行えたことに喜びを感じました。

エンダウメントの後、祖母と祖母の両親を結び固めるために、わたしたちは結び固めの部屋に向かいました。儀式を受けるため聖壇に向かい合ってひざまずき、儀式執行者が話し始めたとき、わたしは突然、衝撃を感じました。その衝撃は、頭から始まって体中を駆け巡りました。言葉にするのは難しいのですが、その燃えるような感覚を覚えた瞬間、祖母ジョセフィーナが両親に結び固められるのを喜んでいると確信したのです。■

ブラジル・サンパウロ、
マリレナ・クレトリ・ブレテル・ブスト





孤独と悲哀に
浸りながら
家で

じっとしているより、
奉仕団で手伝う方が
ずっといいと考えました。
わたしは数日後、
空腹を抱えた人々が
差し出す皿に、
温かいマッシュポテトを
盛り付けていました。

自分自身と周りの人々を元気づける

1990年の感謝祭のときのことです。つらい離婚を経験したばかりのわたしは、見知らぬ町で法学生として1年目を過ごしていました。子供たちは、感謝祭の休暇を父親の家で過ごすことにしていたので、わたしは感謝祭を独りで迎えようとしていました。

わたしは初め、自分を哀れんで思う存分泣いて過ごそうと思っていました。しかしその後、与えられている祝福を数え上げ始めました。二人の素晴らしい子供たち、快適な家、知識を増す機会、人生の指針となるイエス・キリストの福音など、実に多くの祝福を受けていることに気づいたのです。

感謝祭が近づいたころ、法学生のグループが計画している奉仕活動について知りました。地元の奉仕団へ出かけて行き、ホームレスの人たちに少し早めの感謝祭の食事を出す手伝いをするのです。孤独と悲哀に浸りながら家でじっとしているより、奉仕団で手伝う

方がずっといいと考えたわたしは、学生たちの仲間に入れてもらうことにしました。

わたしは数日後、空腹を抱えた人々が感謝して差し出す皿に、温かいマッシュポテトを盛り付けていました。彼らは皆、人生の荒波にもまれていました。わたしの目にあふれる涙は、自己憐憫の悲しい涙ではなく、様々な境遇にある神のすべての子供たちに対する愛の涙でした。

感謝祭にはオープンに入った七面鳥が欠かせません。しかし、14ポンド(6キロ)もの七面鳥は、わたしには大きすぎます。そこで、他国や遠方の州から来ている学生を数人、我が家に招待しました。アメリカの伝統的な感謝祭のごちそうをふるまいたかったのですが、彼らにも何かしてもらおうと思い、それぞれ好みの料理を一品持ち寄るように頼みました。感謝祭の夕食は、春巻きやいろいろな料理がテーブルに並ぶ、愉快で忘れられないものにな

りました。

ベニヤミン王は、こう言明しました。「そして見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということ悟らせるためである。」(モーサヤ2:17)

わたしはその年の感謝祭に、大切な教訓を学びました。じっとしてふさぎ込んでいる方が容易に思えるとき、奉仕することによって喜びを見いだしました。奉仕は幸福への鍵です。それは、休暇という、生活に欠けているものばかりに目を向けてしまいがちなときに限らず、どのような季節においてもいえることです。自分の境遇がどうであろうと、いつでも助けを必要とする人を見つけることができます。兄弟姉妹を元気づけることによって、自分自身もまた元気づけられるのです。■

アメリカ合衆国、ワシントン州、キャシー・ホイッター

家庭の夕べのためのアイデア

以下は教え方の提案です。皆さんの家族に合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「神殿の祝福」 12ページ
—神殿の写真を見せます。神殿の写真を置いた場所から部屋の反対側に家族の写真を置きます。記事の内容を簡単に話しながら、家族の写真を神殿の写真に



近づけていきます。家族が神殿までたどり着いたとき、どのように感じたか家族に尋ねます。教義と聖約 109:7-23を読み、神殿に備えるためにさらに準備する方法や神殿参入を通して得られる祝福をいくつか挙げます。(2008年10月の総大会でのシルビア・H・オールレッド姉妹の説教「聖なる神殿、神聖な聖約」も参照。)

「わたしが？ イスラエルの羊飼いか？」

30ページ—「群れに連れ戻す」の項を読んで、ほかの人々の羊飼いかになる方法について話し合います。幼い子供たちのためには、羊飼いか迷い出た羊を探すように、隠れる役と探す役を交代しながら、かくれんぼをします。「群れの中に」連れ戻せる人々について考えます。最後に、人々を助ける方法について導きを求めて祈ります。(2008年10月の総大会でのエドアルド・ガバレット長老の説教「我が家に戻る」も参照。)

「祈りによって始める」

40ページ—記事の中から大切な点を要約します。「語りかける相手」の項の最初の段落をもう一度読みます。家族の祈りによって強められたときのことについて話すよう家族に頼みます。ほかの人のために祈ることの大切さを強調するために、2008年10月の総大会でのデビッド・A・ベドナー長老の説教「常に祈りなさい」の最後の3段落を読んでよいでしょう。

「トルティーヤのきせき」 F6ページ
—物語を読んでから、ラウルの家族が神殿に行く準備をしていたとき直面した問題について話し合います。家族でトルティーヤを作ってもよいでしょう。あるいはトウモロコシを植えてから観光客に売るまでの手順を身振りでもよいでしょう。最後に、デニス・B・ノイエンシュワンダー長老の引用を読みます。

福音を応用する



「永遠の原則をわたしたちの抱えている問題に適用させることは何も難しいことではないのである。立派な結実を望むならば、この真理を抽象的なものから個々の生活に生かすようにしなければならぬ。」

十二使徒定員会
ブルース・R・マッコスキー長老(1915-1985年)
「教師、その大いなる召し」、10

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンズ」の略	神殿, 7, 8, 12, 16, 18,
労働, F6, F8	45, F6, F13, F14
愛, 25, 26, 34, F2	神殿に参入する備え, 8, 12,
あかし証, F11	18, 45, F6
祈り, 40, 44, F10	スミス, ジョセフ, F8
戒め, 2	知恵の言葉, F10
永遠の命, 8	仕える, 26, 30
教える, 22, 25	徳, 24
家族, 34, F4, F6, F14	バプテスマ, 7, 18, 44, 46,
家族歴史, 16, 18	F14
寛容, F8	フェローシップ, 18, 30, 36
管理の職, 30	奉仕, 7, 16, 26, 30, 34,
儀式, 12, 46	47, F2, F13
啓示, 12, 40, F4	結び固め, 12, 18, F6, F14
結婚, F4	召し, 30
慈愛, 26, 44, F2	ものの見方, 36
自信, 24, 36	模範, 34, F10
従順, 2, F10	養い育てる, 25
祝福, 12, 16, 47	友情, 8, F10
祝福師の祝福, 36	労働, F6, F8

記事の募集

救い主をよりよく知るうえで、どのような経験が助けになりましたか。

悔い改め、^{ゆる}赦し、^{あがな}贖い、^{せいさん}聖餐、そのほか救い主の教えや導き、使命について、

どのようにして理解や感謝を深めるようになりましたか。経験やそこから学んだ事柄についての体験談を

liahona@ldschurch.org までお寄せください。